

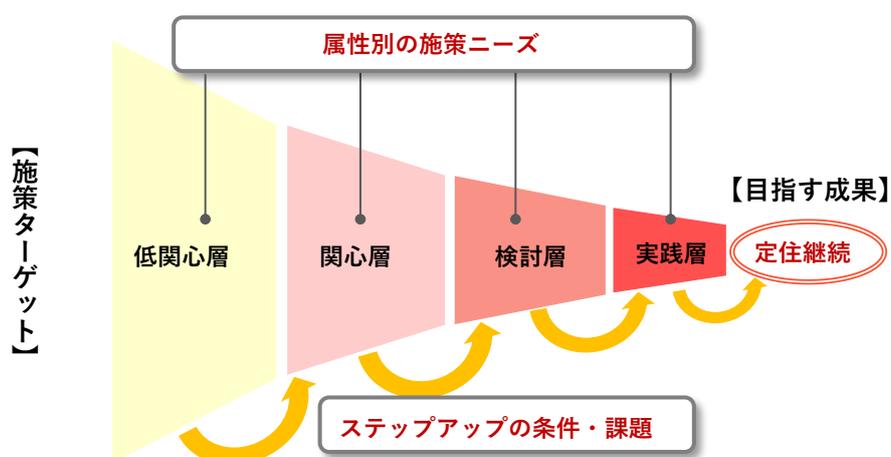
# 【概要版】Uターン者等への意識調査業務 報告書

## 1. 概要

### (1) 背景と目的

島根県では、移住希望者に対する支援制度を確立し、都市部における相談窓口の設置や人材誘致機能の強化を行うなど他県に先駆けて移住・定住対策を推進してきた。前回調査（H28）では、「現在の地域に暮らし続けたい」という意向を持つ者が移住者の半数程度しかいないことが分かったため、市町村と協調して移住者の定着支援を強化したところである。前回調査から7年を経て、現在の定住施策の点検とコロナ禍を経た移住者の意識やニーズを把握し、今後の施策の方向性を検討するため調査を実施した。

目指す成果のイメージ



### (2) 調査対象

調査対象	対象者と調査手法
(1) 移住実践者 (A.島根への <u>移住実践層</u> )	おおよそ平成30年～令和4年にくらしまねっと登録企業へ就職した者を対象とした。就職先の企業を介して、移住者及び同伴家族へアンケート調査票を送付した。回収率向上のため、企業宛に電話案内を実施した。
(2) 移住希望者1 (B.島根への <u>移住検討層</u> )	くらしまねっとに求職登録（Web履歴書入力）している県外在住者（約2,400名）を対象とした。登録者へアンケート調査票を送付した。回収率向上のため、求職登録者宛のチラシ送付、及び定住財団が実施する「しまね移住フェア」にて来場者に案内の声掛けを実施した。
(3) 移住希望者2 (C.島根への <u>移住関心層</u> )	県外在住者で島根県への移住に関心を持つ者を対象とした。くらしまねっと登録者のうち求職登録者（Web履歴書入力）を除く者へアンケート調査票を送付すると共に、くらしまねっとに調査票へ誘導するバナーを設置し、サイト閲覧者に対し調査を実施した。
(4) Uターンに低関心な者 (D.島根への <u>移住低関心層</u> )	島根県出身者のうちUターンの意向が低い者を対象とした。定住財団が実施する「しまねサブリプロジェクト」に参加する者に対し、アンケート調査票を送付した。

※ くらしまねっと：定住財団が実施する無料職業紹介サイト

※ しまねサブリプロジェクト：県内在住者から県外在住の出身者へ物品・メッセージを送付しUターンを促進する事業

### (3) 実施期間

業務実施期間： 令和5年6月15日 ～ 令和6年3月31日  
調査票配布・回収期間： 令和5年6月15日 ～ 令和5年10月31日  
(低関心層のみ8月8日 ～ 1月31日)

### (4) 調査方法

インターネットを活用したアンケート調査 (Microsoft Forms) により電子的に調査票を送付・回収し、回答率向上のためデジタルギフトとして回答者に謝礼を送付した。調査票の送付は、Web アンケート調査票ページへのリンクを送付することによって実施した。また、各調査の一部の対象者に対して、ヒアリング調査を実施した。

### (5) 調査項目 (移住実践層)

No.	項目
1	回答者属性 (性別、年齢、現住所、UI ターン直前の住所、転入した年月)
2	U ターン/I ターンのどちらか
3	出身地 (U ターンの場合、I ターンの場合)
4	島根県との関係
5	一緒に移住した家族の有無
6	一緒に移住した家族の構成、当時の子どもの年齢
7	UI ターンを考えるようになった動機、そのなかで決め手になった動機
8	UI ターン検討時に困ったことや不便を感じたこと、特に困ったことや不便を感じたこと
9	UI ターン後に困ったことや不便を感じたこと、特に困ったことや不便を感じたこと
10	UI ターンする前に特に重視した項目 (仕事、生活環境、医療福祉、教育・子育て)
11	現在の生活の満足度
12	UI ターン直前の就学・雇用形態、業種
13	UI ターン直前の世帯年収
14	現在の就学・雇用形態、業種
15	希望する職業かどうか
16	現在の職業の継続意向
17	現在の世帯年収
18	現在の住宅形態
19	UI ターンする際に住宅をみつけた方法
20	UI ターンする際に住宅を探す上で困ったことや不便に感じたこと
21	現在の近所付き合いの程度
22	今後の近隣住民との付き合い方
23	地域活動や自治会、公民館活動等のイベント、お祭りなどへの現在の参加状況
24	地域活動や自治会、公民館活動等のイベント、お祭りなどへの今後希望する参加状況
25	現在の地域への居住継続意向と、その理由
26	UI ターン情報の収集に利用した情報・サービス等
27	UI ターンする際に受けた支援制度
28	UI ターンについて必要だと感じている施策やご意見・ご感想

(6) 調査票の回収状況と調査対象者の概要

調査票配布・回収期間： 令和5年6月15日～10月31日（低関心層のみ8月8日～1月31日）

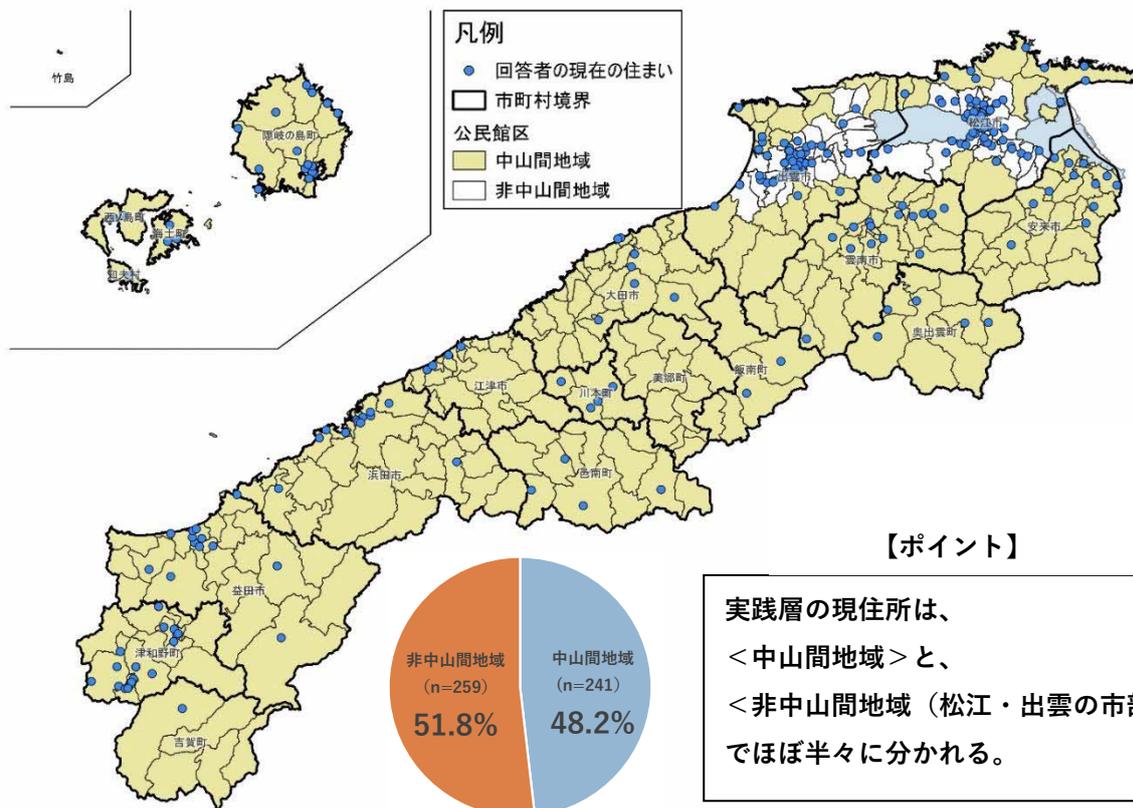
対象者		実践層	検討層	関心層	低関心層
		回収数 500 くらしまねっと登録の 県内企業に就職した 者、及びその家族等	回収数 531 くらしまねっとに求職 登録(Web履歴書入力) している県外在住者	回収数 540 くらしまねっと登録者 のうち求職登録者を除 く県外在住者等	回収数 169 定住財団が実施する 「しまねサブプロジ ェクト」に参加する者
調査対象者の概要	UIターン 比率	Uターン … 56.6% Iターン … 43.4%	Uターン… 24.9% Iターン… 75.1%	Uターン… 30.4% Iターン… 69.5%	Uターン … 100%
	性別	男性 … 63.4% 女性 … 36.6%	男性 … 57.3% 女性 … 42.7%	男性 … 50.0% 女性 … 50.0%	男性 … 45.0% 女性 … 55.0%
	年齢	20代 … 25.2% 30代 … 38.4% 40代 … 23.6% 50代 … 7.6%	20代 … 16.5% 30代 … 27.8% 40代 … 22.8% 50代 … 23.5%	20代 … 11.5% 30代 … 38.8% 40代 … 25.2% 50代 … 18.5%	20-24歳 … 16.0% 25-29歳 … 37.3% 30-34歳 … 32.5% 35-39歳 … 14.2% ※20～39歳が対象
	現住所	<調査票エリア区分> 松江市松江…31.6% 出雲市出雲…16.0% 津和野町 … 9.0% 隠岐の島町… 7.0% — <市郡区エリア区分> 松江市 … 39.4% 出雲市 … 19.0% 隠岐郡 … 9.4% — <地域類型別> 中山間地域 48.2% 非中山間地域 51.8%	<都道府県区分> 大阪府 …20.5% 東京都 …16.6% 神奈川県 … 8.7% 広島県 … 8.5% — <全国8エリア区分> 関東 … 37.1% 近畿 … 32.8% 中国 … 12.2%	<都道府県区分> 東京都 …17.2% 大阪府 …14.6% 神奈川県 … 9.1% 広島県 … 7.8% — <全国8エリア区分> 関東 … 37.2% 近畿 … 27.6% 中国 … 13.7%	現住所の設問なし  —
	出身地	Uターン (n=283) <地域類型別> 中山間地域 52.3% 非中山間地域 47.7% Iターン (n=217) 広島県 … 11.5% 大阪府 … 11.1% 東京都 … 10.6%	Uターン(n=132) <地域類型別> 中山間地域 45.5% 非中山間地域 54.5% Iターン (n=399) 大阪府 …16.4% 東京都 … 9.0% 神奈川県… 4.5%	Uターン(n=164) <地域類型別> 中山間地域 53.0% 非中山間地域 47.0% Iターン (n=376) 大阪府 …11.5% 東京都 … 8.5% 兵庫県 … 5.7%	Uターンのみ(n=169) <市町村別> 松江市 …47.3% 出雲市 …19.5% 雲南市 …10.7% <地域類型別> 中山間地域 33.1% 非中山間地域 66.9%

## 2. 調査結果

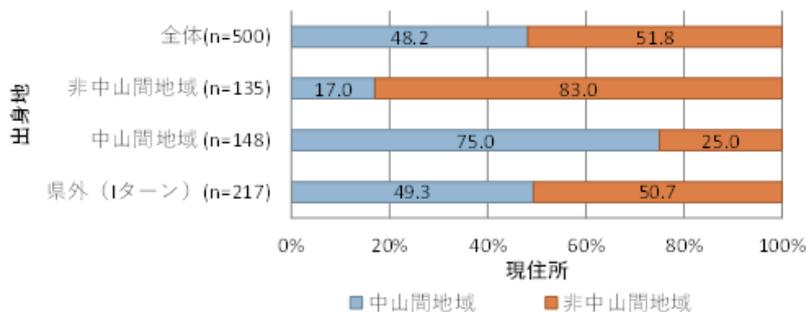
### ■A.実践層（既に島根県にUIターンしている者）の状況

#### (1) 回答者の属性

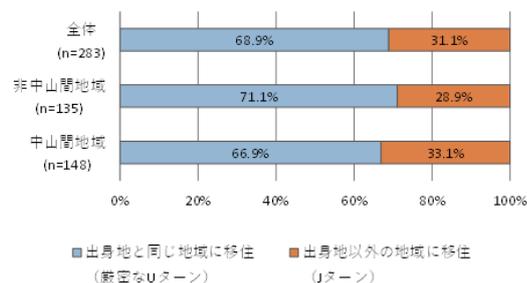
##### ① 移住実践層の分布（現住所）



##### ② Uターン者の「出身地」と「現住所」の関係



##### <参考> UターンとJターン



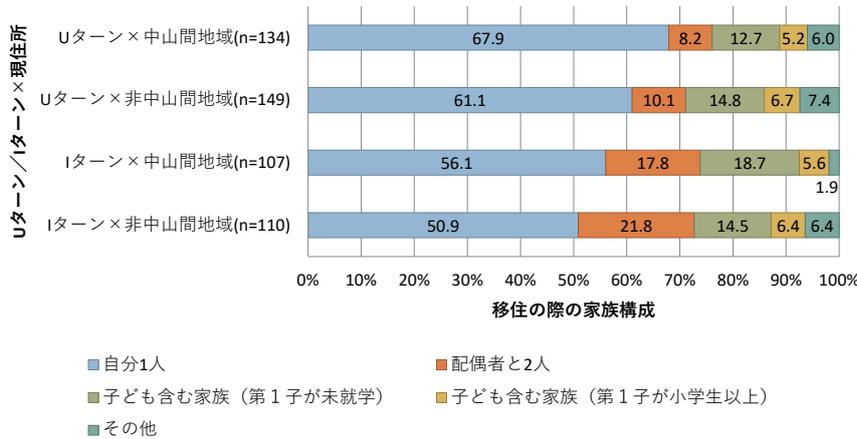
##### 【ポイント】

- ・松江・出雲の市部出身のUターン者は、83%が「松江・出雲の市部」に移住。
- ・中山間地域出身のUターン者は、75%が「中山間地域」に移住。
- ・Iターン者の移住先は、「中山間地域」と「松江・出雲の市部」で約半々。

<参考> 島根県内の異なる地域に移住するケース（いわゆる「Jターン」）は3割程度。

※ 中山間地域出身者と非中山間地域出身者とで傾向は同じ。

### ③ 移住の際の家族構成

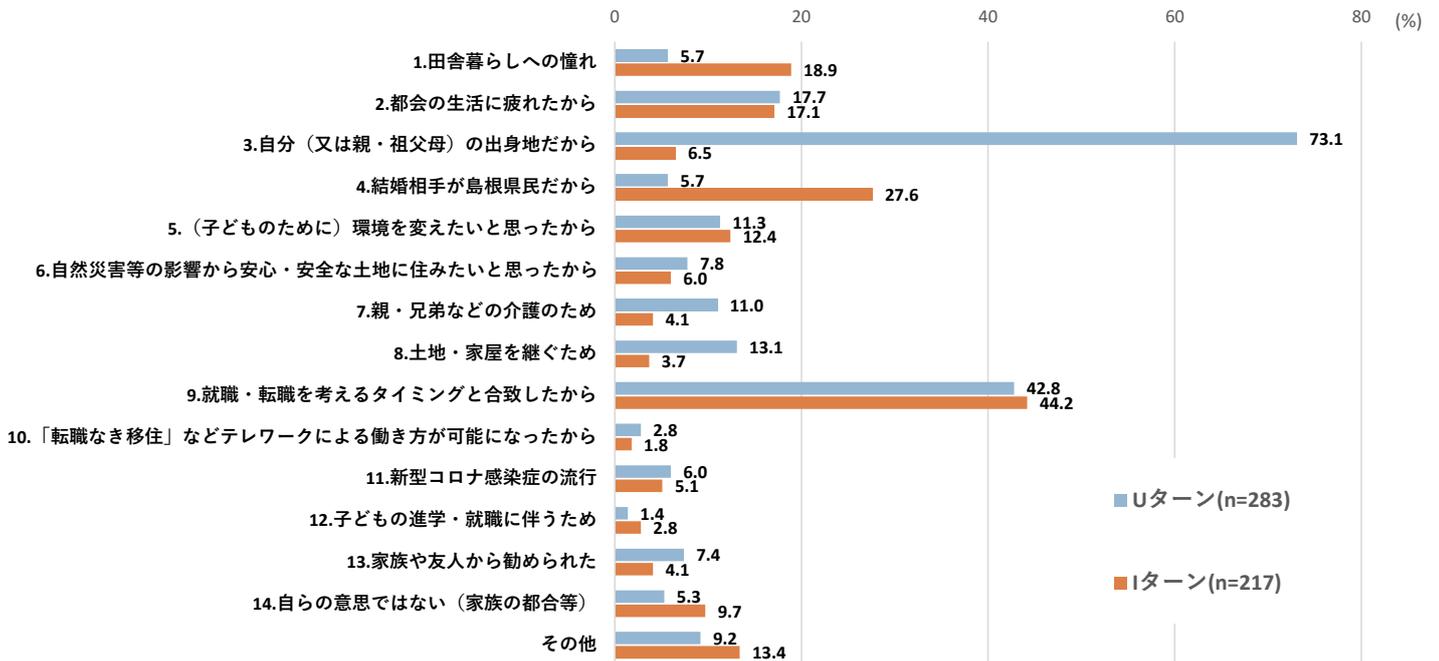


- ・ 移住の際、Uターン者はIターン者よりも「単身」のケースが多い。
- ・ 中山間地域への移住では、非中山間地域に移住より「単身」のケースが多い。
- ・ 「第1子が未就学の子ども」との移住は、中山間地域へのIターンの場合に多い。

#### 【考察】

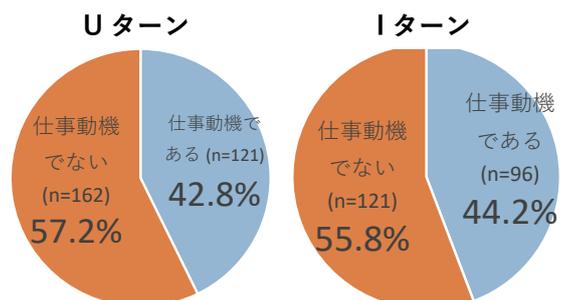
「Iターン者は、移住にあたって家族のための環境（田舎での子育て環境等）を考慮するケースが多い」、  
 「Uターン者は、家族が居る場合に中山間地域を選択しづらい何らかの要因がある」ことが推測される。

### (2) UIターンの動機（複数回答）

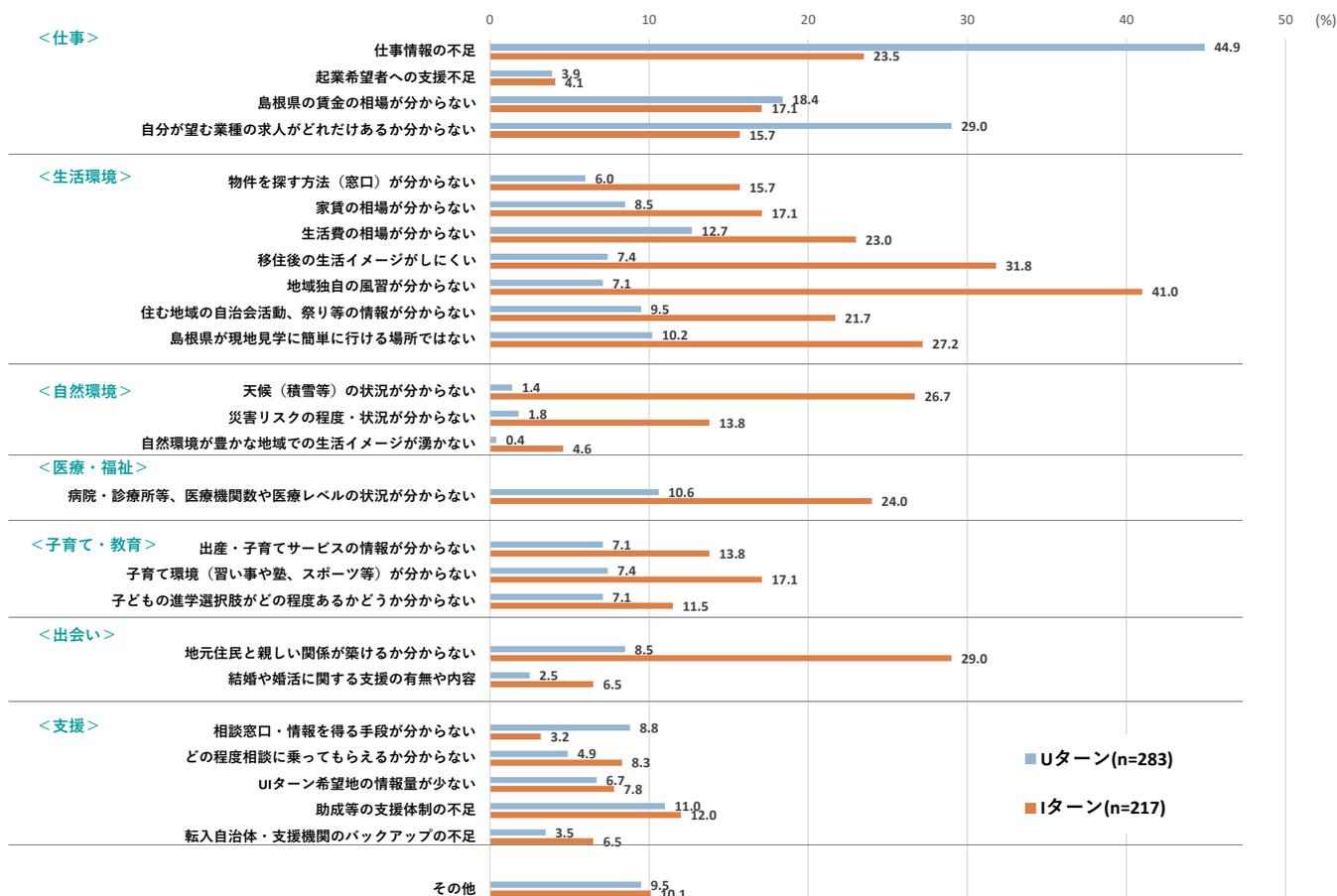


#### 【ポイント】

- ・ Uターン、Iターンともに、「就職・転職を考えるタイミングと合致したから」が4割強。「仕事」を動機とするかどうかで回答者が大きく2つに分かれる。
- ・ 「テレワークによる働き方」を動機とする者は少数。



### (3) UI ターン検討時に困ったことや不便を感じたこと



#### 【ポイント】

- ・ Uターン者は「仕事分野」で困りごとや不便を感じている。特に「仕事情報の不足」と「自分が望む業種の求人がどれだけあるか分からない」はIターン者との差が大きい。
- ・ Iターン者は、全ての分野にわたって困りごとや不便が多い。特に多いのは、「地域独自の風習が分からない」41.0%、「移住後の生活イメージがしにくい」31.8%、「地元住民と親しい関係が築けるか分からない」29.0%。

#### 【意見】

「UI ターン検討時に特に困ったことや不便を感じたこと」の自由記述欄より

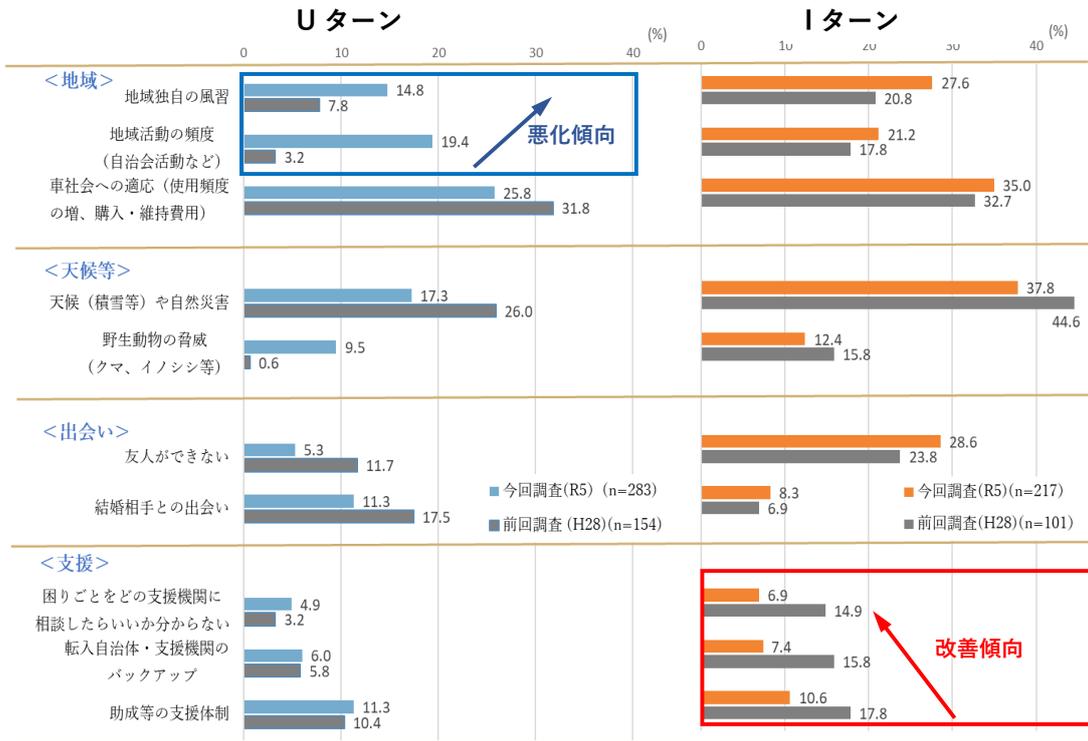
##### ■ Uターン者

- ・ 大手求人サイトに島根県の求人が少なく、また仕事の相場感も分からなかった。
- ・ 就職のタイミングで帰ってきたので、どういった仕事があるのか等の情報が得られにくかった。
- ・ 本土と比べて、職種の少なさに困った。
- ・ もっと UI ターンが増えるような企業の情報があると良い。

##### ■ Iターン者

- ・ 自家用車を持っていなかったため、移住と同時に車の手配もしなければならず、大変だった。中古車を購入したが、カーリースなどの情報があれば助かった。
- ・ 自分が理想とする移住先や仕事について考えをまとめるのが大変。その上で、それらを実現できる移住先が存在するか探さないといけない。
- ・ 転居にあたって、自治体が紹介してくれた不動産屋を利用したが、UI ターンに特化しているわけでもなく、何を相談しても本人が決めることと一蹴された。後のトラブルを避けたい気持ちは分かるが、地元に住んでいないと分からないことも多く、相談に乗ってもらえる業者を紹介して欲しかった。

#### (4) UIターン後に不便を感じたこと



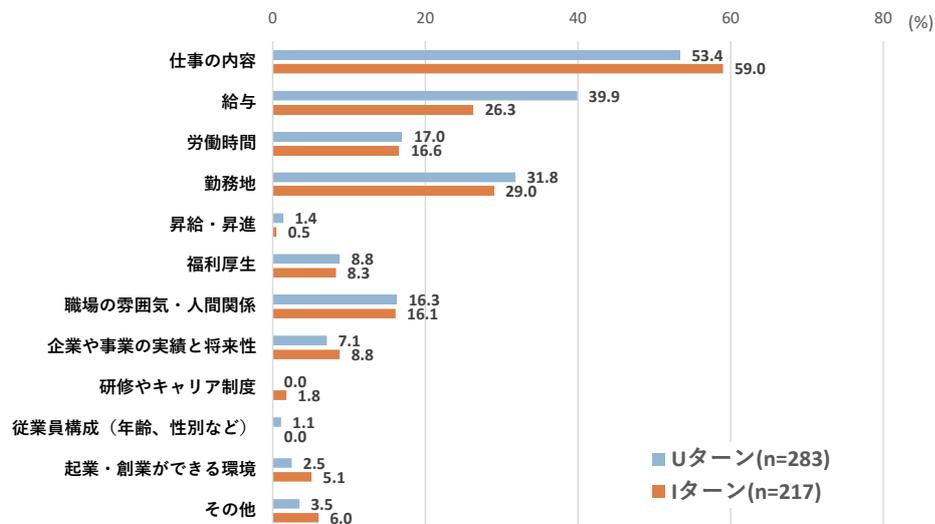
※複数回答。調査票から、顕著な傾向が見えたものだけを抜粋して掲載

#### 【ポイント】

- ・ 前回調査と同様に、Iターン者のほうが<生活環境>、<自然環境>の不便を感じる割合が高い。
- ・ Iターン者の<支援>の各項目の回答割合が減少しており、Iターン者への自治体・支援機関のバックアップや助成等の支援体制が改善していると考えられる。

#### (5) UIターンする前に重視した項目 (複数回答)

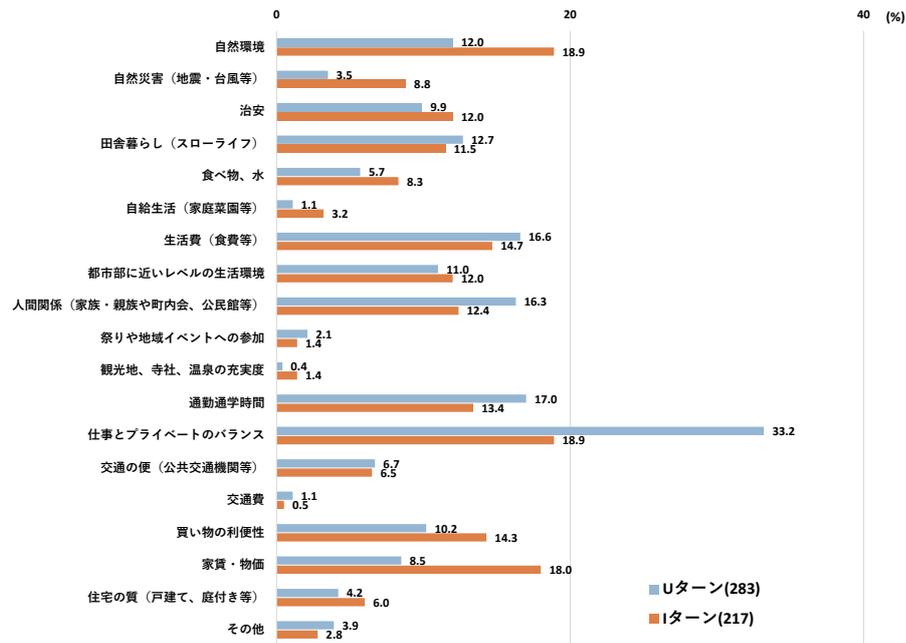
##### ① 仕事に関すること



#### 【ポイント】

- ・ 「仕事の内容」の割合が大きい。

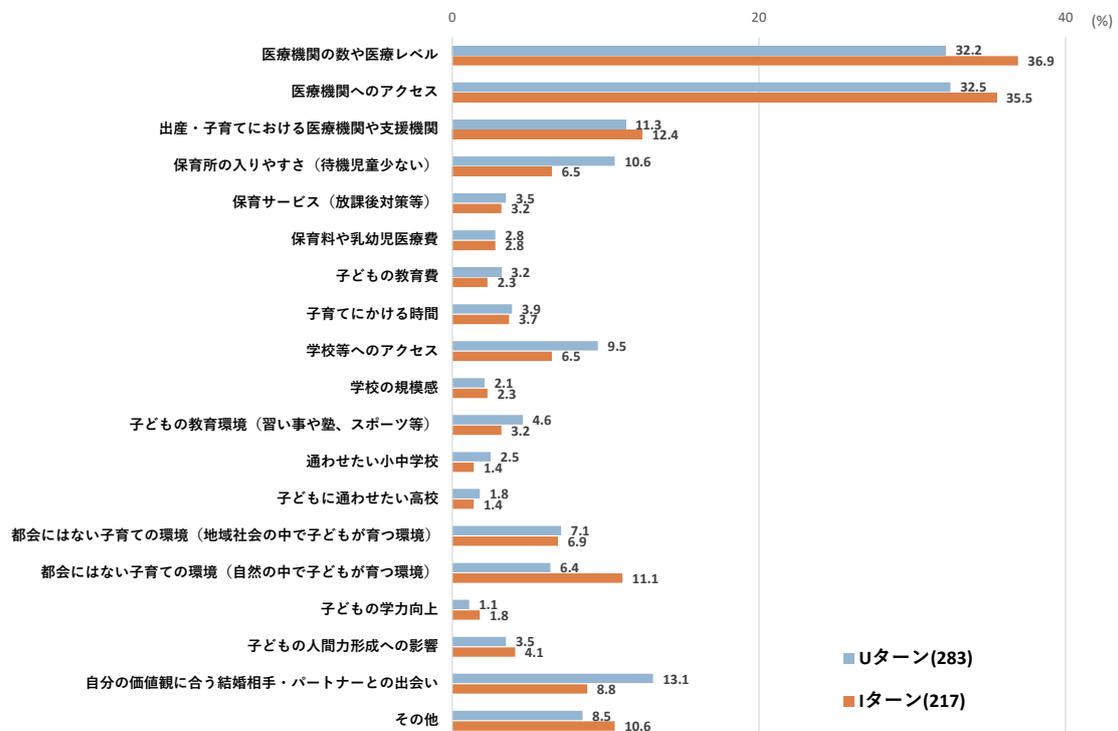
## ② 生活環境に関すること



### 【ポイント】

- ・ Uターン者は「仕事とプライベートのバランス」(33.2%)を重視。Iターン者は「自然環境」、「仕事とプライベートのバランス」(18.9%)、「家賃・物価」(18.0%)を重視。

## ③ 医療福祉、教育・子育てに関すること

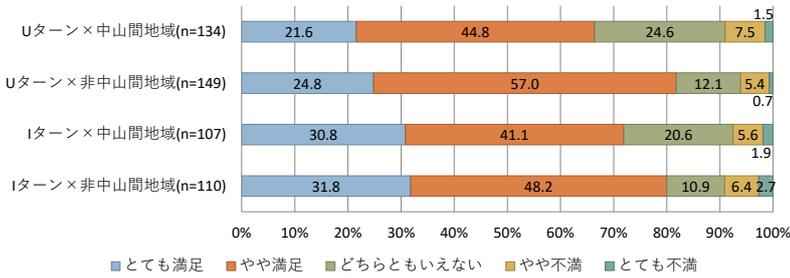


### 【ポイント】

- ・ <子育て分野>よりも<医療分野>が重視される傾向にある。

## (6) 生活の満足度と職業について

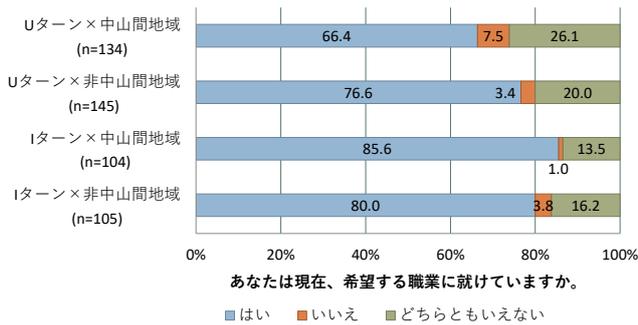
### ① 現在の生活の満足度



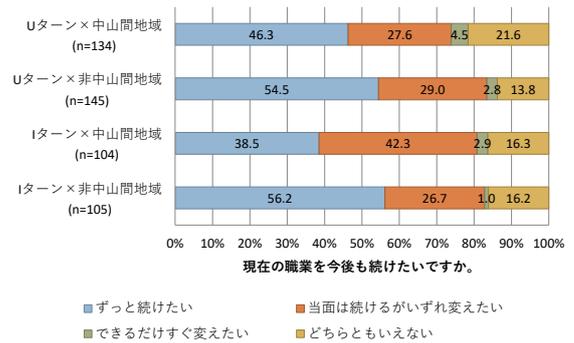
### 【ポイント】

- ・Iターン者のほうが生活満足度は高い。
- ・中山間地域へのIターン者は、希望の職業に就いている割合が最も高いが、職業の継続意向が最も低い、という対照的な結果となっている。

### ② 希望の職業に就いているか



### ③ 職業の継続意向



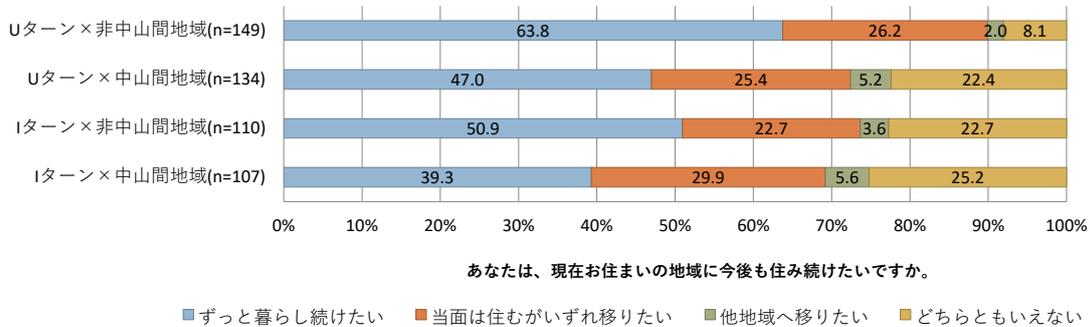
### 【意見】

<調査票「職業を変えたい理由」自由記述欄より> (中山間地域へのIターン者)

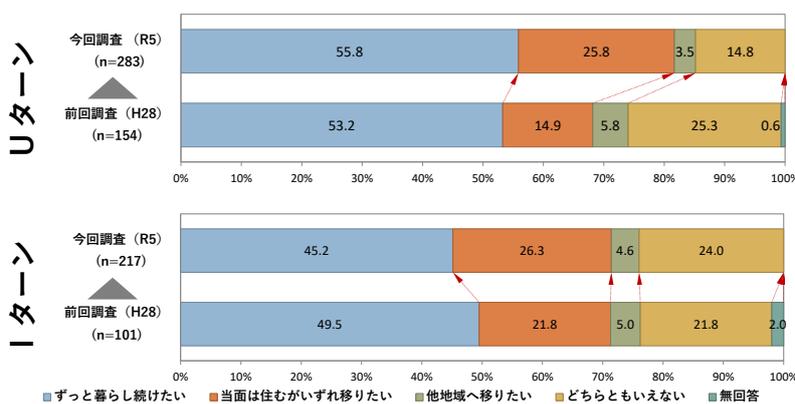
- ・『IT系一本で生きてきたが次のステップに挑戦してみたい』、『複業できるような形にしていきたいため』、『社会に提供したいサービスがあるが現状では実現できないため』、等

## (7) 今後の意向

### ① 定住意向



### 【前回調査との比較】

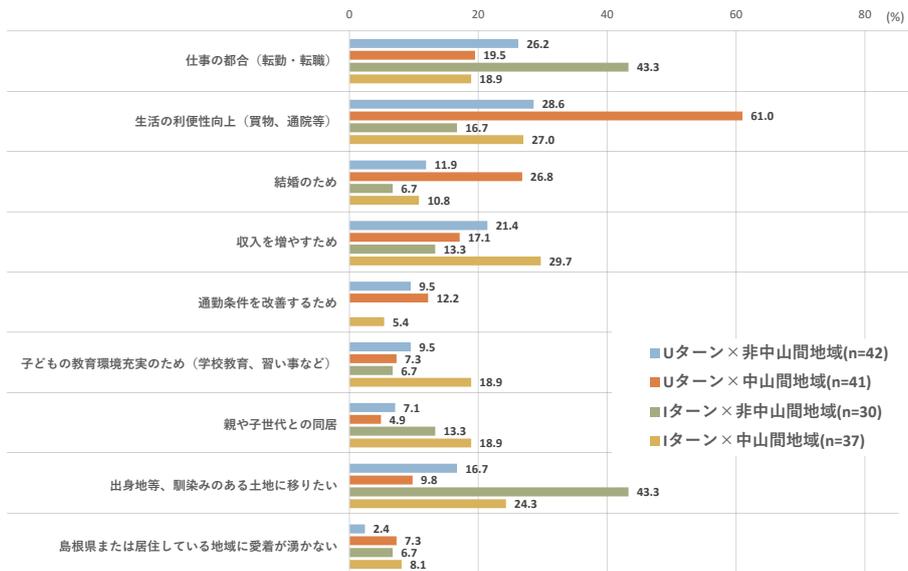


### 【ポイント】

- ・非中山間地域へのUターン者は定住意向が高く、中山間地域へのIターン者は定住意向が低くなる。
- ・前回調査との比較では、「ずっと暮らし続けたい」がUターン者は微増傾向、Iターン者は微減傾向。

## ② 他地域へ移りたい理由（複数回答）

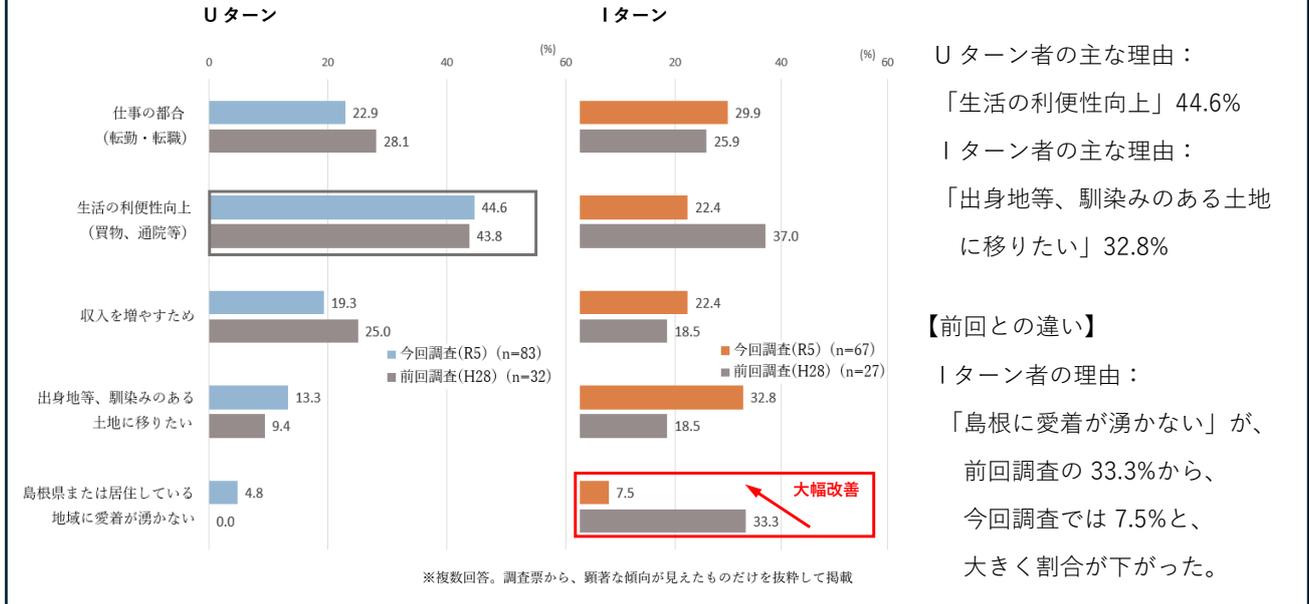
※ ①で「当面は住むがいずれ移りたい」「他地域へ移りたい」と回答した人が対象



### 【ポイント】

- 中山間地域へのIターン者は、多い順に「収入を増やすため」、「生活の利便性向上」、「出身地等、馴染みのある土地に移りたい」を移りたい理由としている。
- 中山間地域へのUターン者は、61%が「生活の利便性向上」を移りたい理由としている。

### 【前回調査との比較】



Uターン者の主な理由：

「生活の利便性向上」44.6%

Iターン者の主な理由：

「出身地等、馴染みのある土地に移りたい」32.8%

【前回との違い】

Iターン者の理由：

「島根に愛着が湧かない」が、前回調査の33.3%から、今回調査では7.5%と、大きく割合が下がった。

### 【考察】

中山間地域へのIターン者の定住意向が低い理由は、地域に起因する要因というよりも「人生ステージによって居住する地域を移す、多拠点で居住する」といったライフスタイルに起因する可能性が考えられる。

### 【意見】

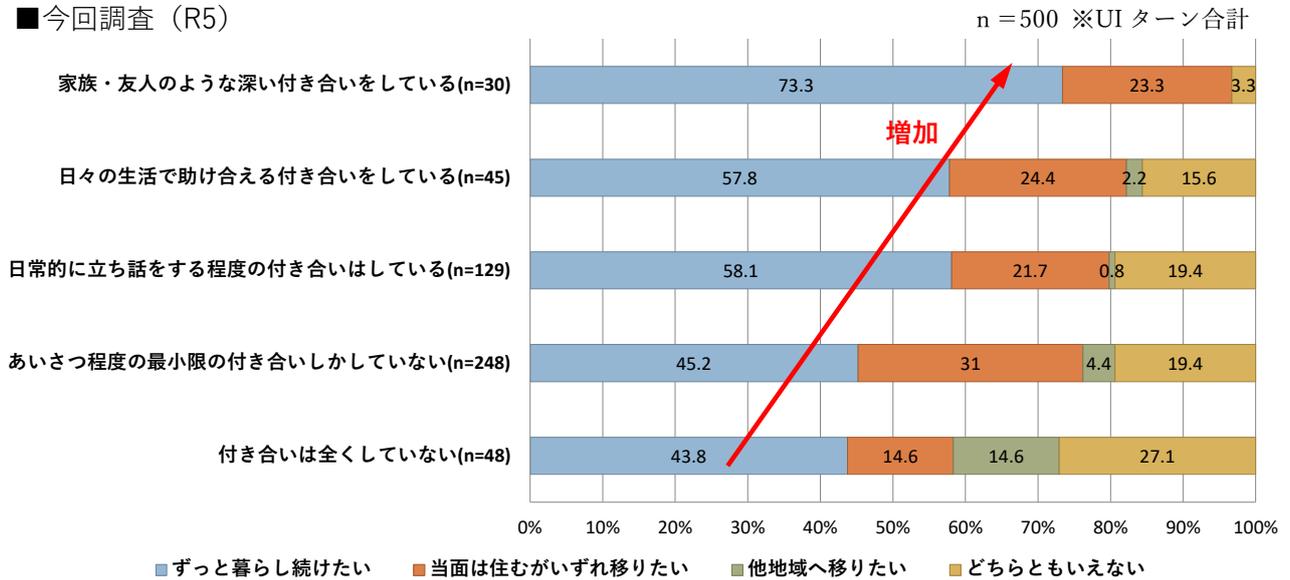
<調査票の自由記述より> 『複数（4地域）拠点での生活に移行していきたい。』

<個別インタビューより> 『子どもが未就学のためすぐに移住することはできないが、子どもが高校卒業するくらいには他の地域にも行ってみたい。島根に不満があるのではなく好奇心から。』

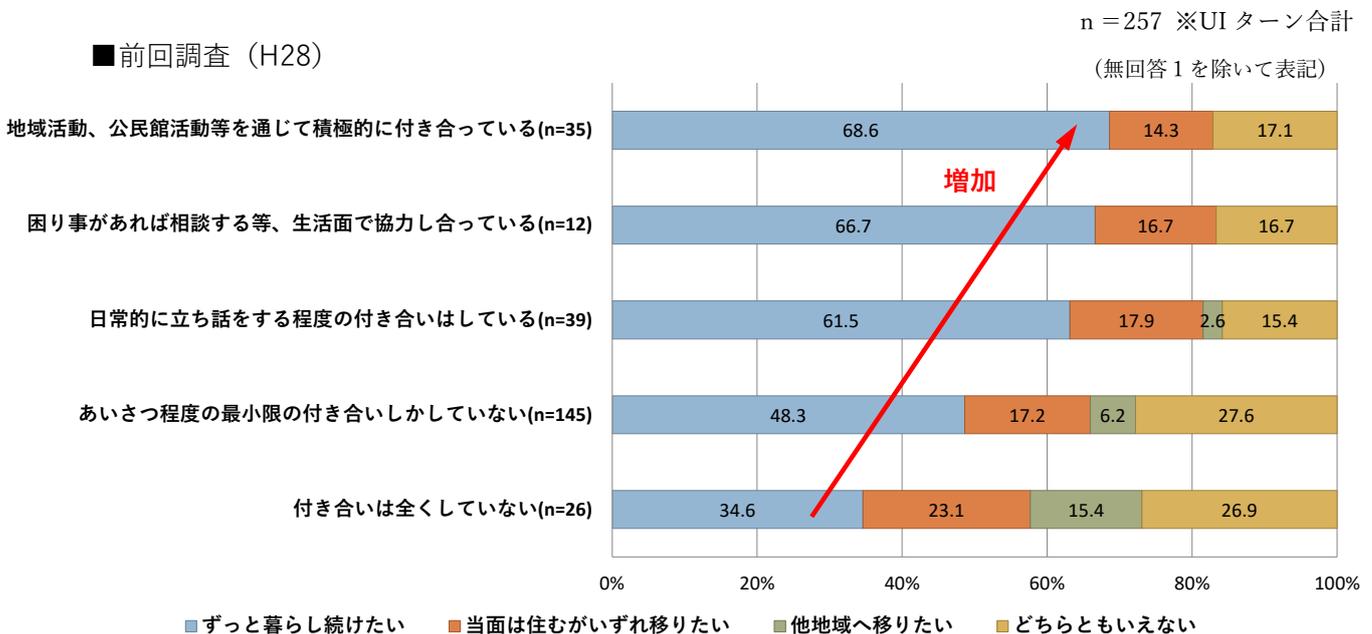
### ③ 近所付き合いと定住意向の関係性

前回調査で相関が確認された「定住意向」と「近隣住民との付き合い」の関係を比較した。  
 前回と同様に、「近隣住民との付き合い」が積極的になるほど、「定住意向」が高まることが分かった。

#### ■ 今回調査 (R5)



#### ■ 前回調査 (H28)

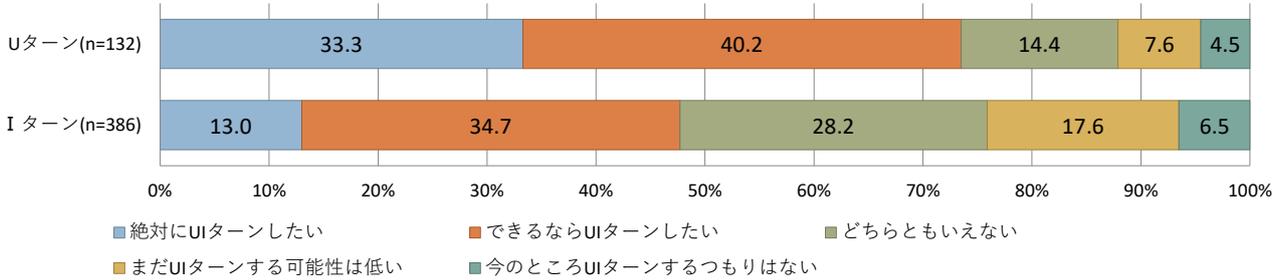


- ・「定住意向」と「近隣住民との付き合い」の相関性が今回調査でも確認された。
- ・定住支援のため、移住者が「近隣住民との付き合い」を深めていくための支援が引き続き必要である。

## ■B.検討層（島根県への UI ターン検討者）の状況

### （1）UI ターン希望の状況

#### ① UI ターン別



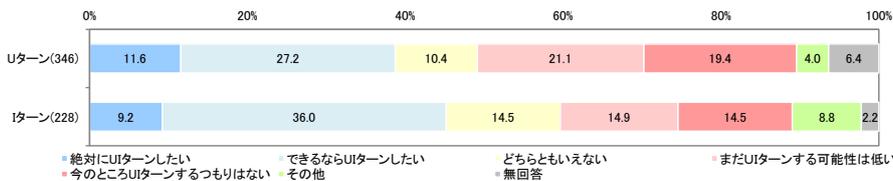
#### 【ポイント】

- ・ Uターン検討者のほうが、Iターン検討者よりも、UIターンの意向が高い。
- ・ UIターン意向のあるものは、Uターン検討者は73.5%、Iターン検討者は47.7%。

※ UIターン意向あり：「絶対にUIターンしたい」、「できるならUIターンしたい」

UIターン意向なし：「まだUIターンする可能性は低い」、「今のところUIターンするつもりはない」、「どちらともいえない」、「その他」

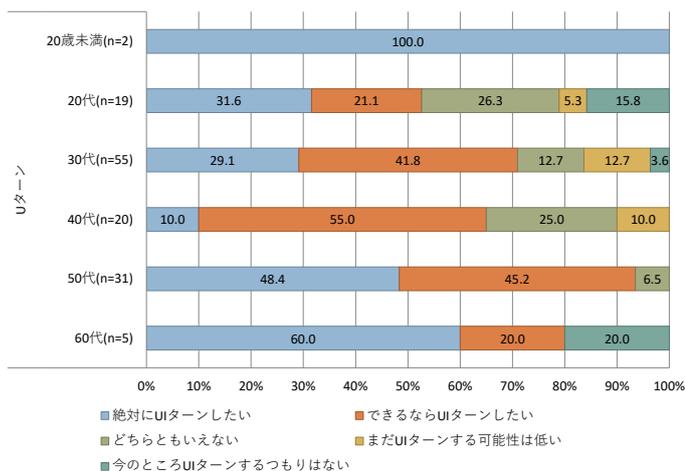
#### ■前回調査（平成29年）



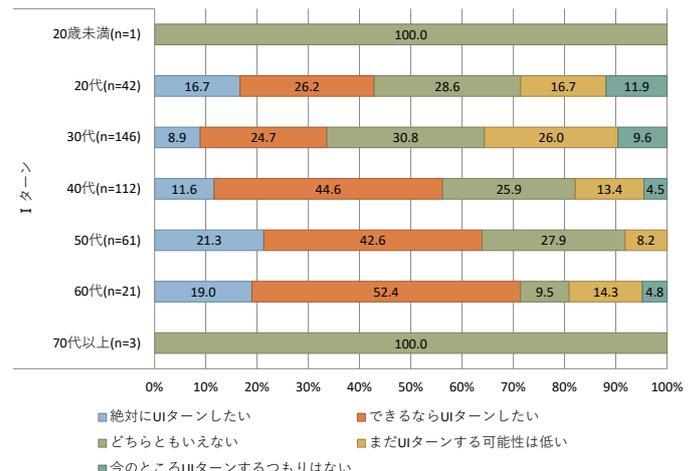
※) 前回調査よりもUターン者の意向が大幅に高くなっているが、前回調査では、検討層の調査対象者に「ふるさと情報登録者」が含まれるため、単純に比較できない。

#### ② 年代別

##### Uターン検討者



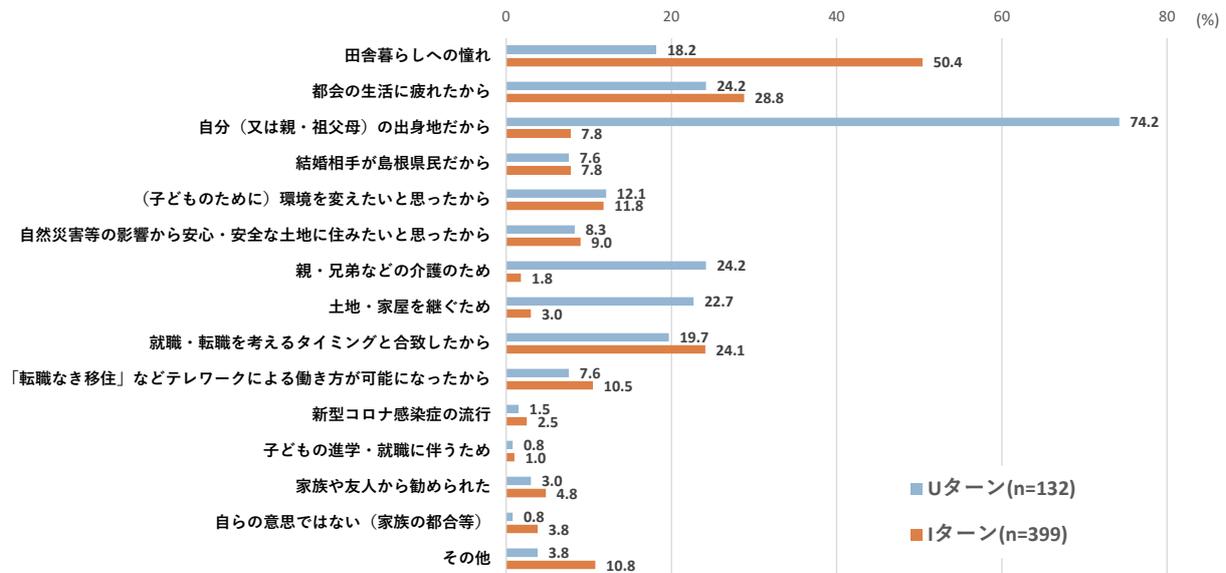
##### Iターン検討者



#### 【ポイント】

- ・ 年代が上がるにつれてUIターン意向が高まる傾向があり、Uターン検討者のほうがその程度が顕著。
- ・ 特に、「Uターン検討者の50代」は、UIターン意向のあるものが93.6%と極めて高い。

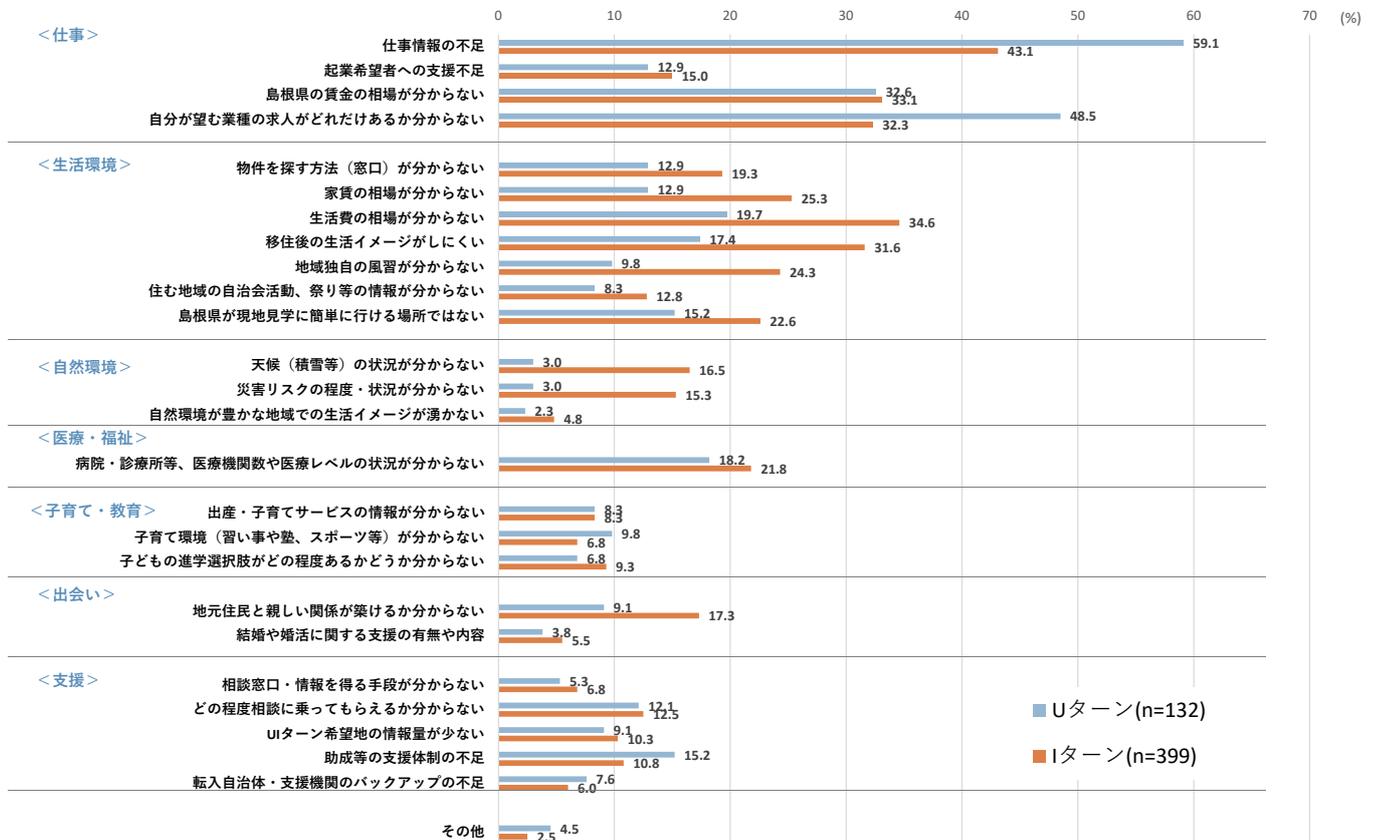
## (2) UI ターン検討の動機



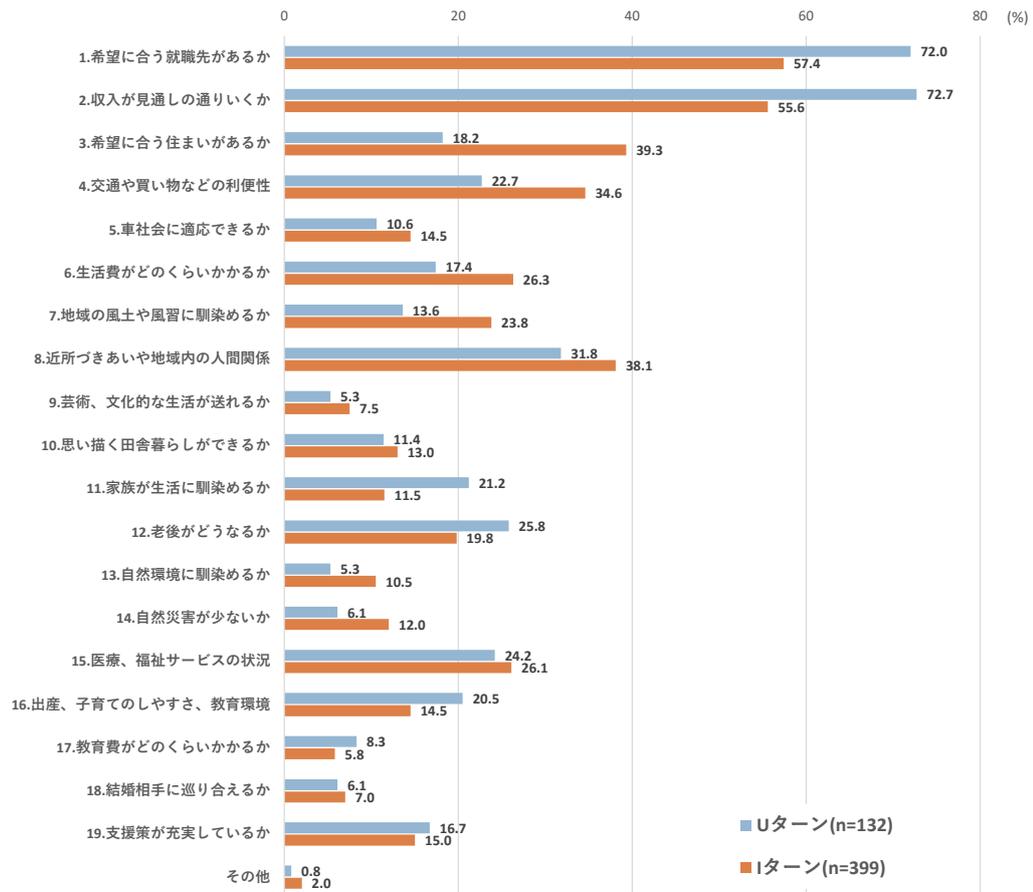
### 【ポイント】

- ・ 検討層の動機は「田舎暮らしへの憧れ」と「都会の生活に疲れたから」が多い。
- ・ Iターン検討者の最大の検討動機が「田舎暮らしへの憧れ」で50.4%。
- ・ Uターン者の「介護のため」と「土地・家族を継ぐため」は、実践層の約2倍の割合となっている。

## (3) UI ターンを検討するにあたって困っていることや不便を感じていること

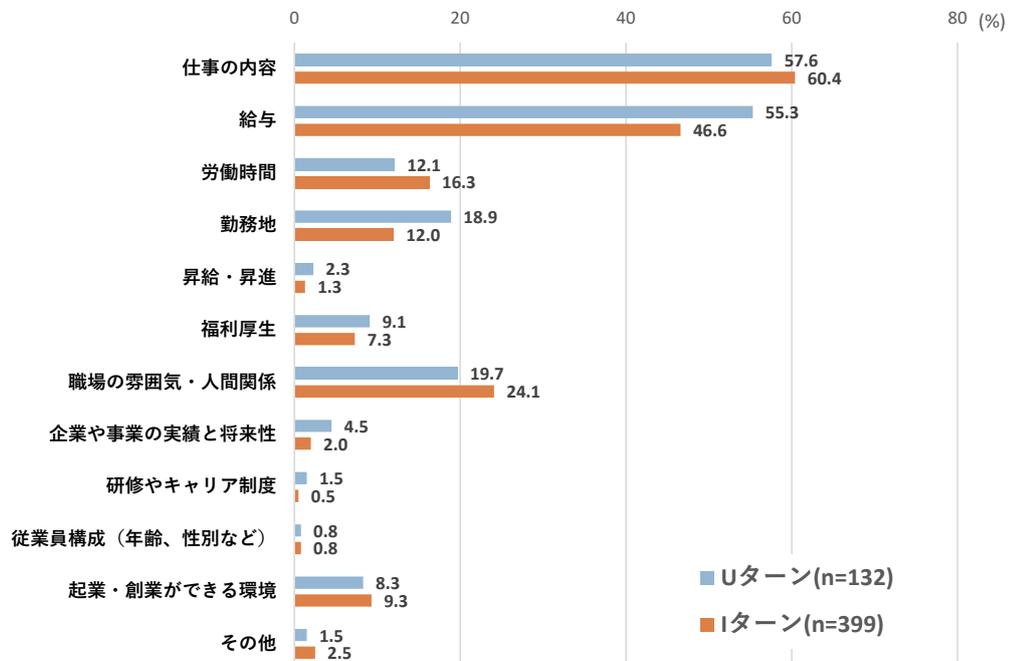


#### (4) UI ターンする際の不安



#### (5) UI ターン後の生活を考える上で重視する項目（複数回答）

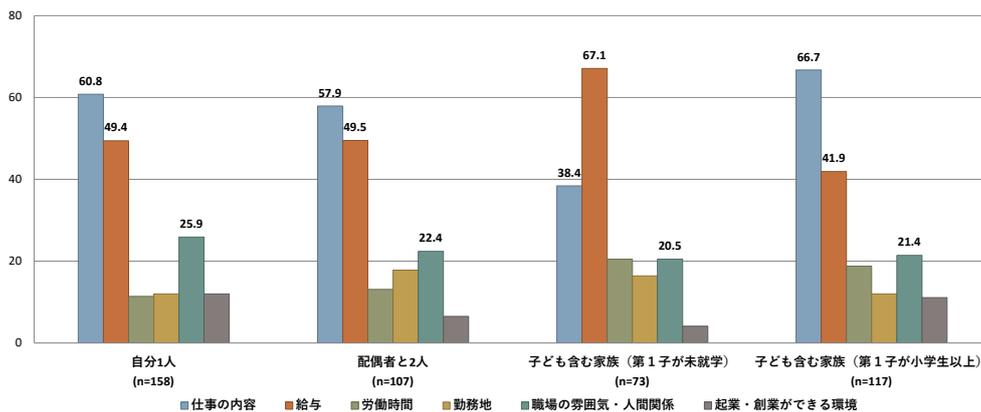
##### ① 仕事に関すること



#### 【ポイント】

- Uターン検討者、Iターン検討者ともに、「仕事の内容」と「給与」が大きな割合を占める。

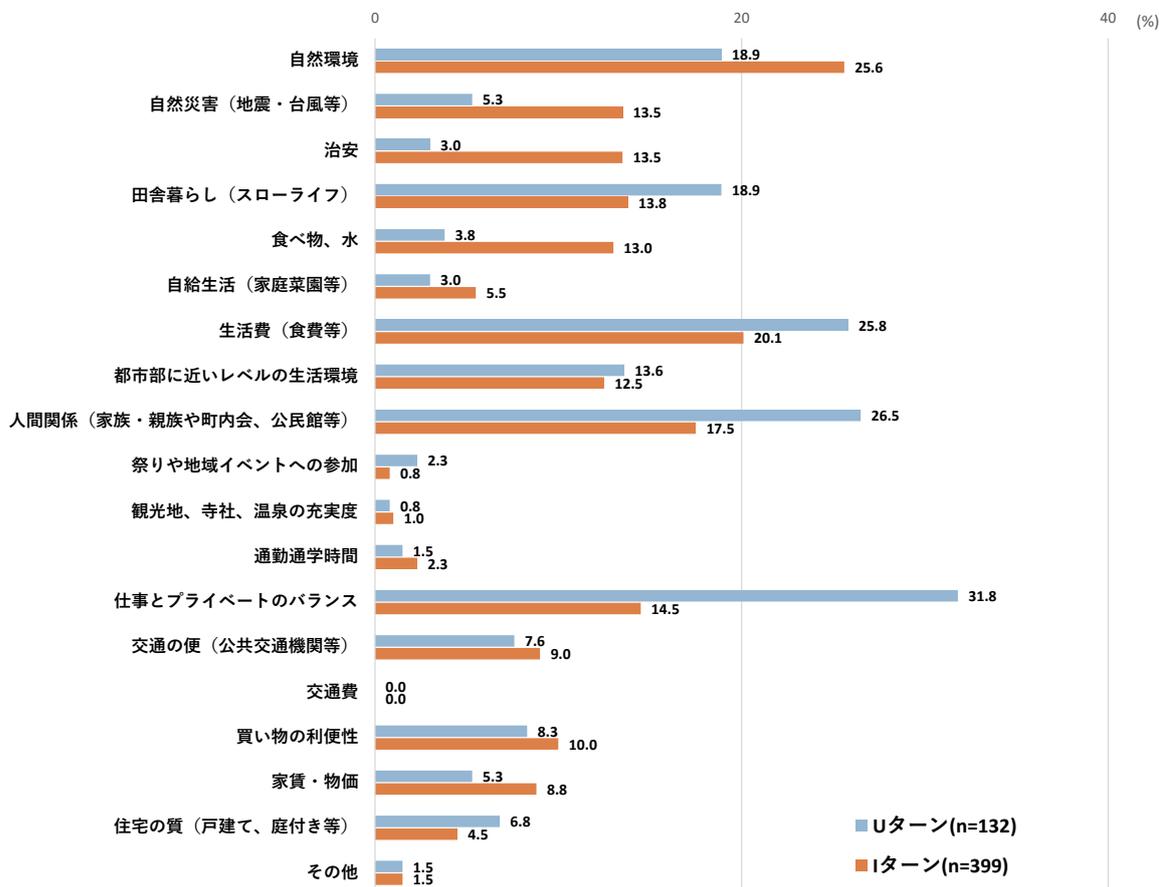
## 【家族形態別】



## 【ポイント】

- 第1子で未就学の子どもの居る場合、「給与」が最も重視される。

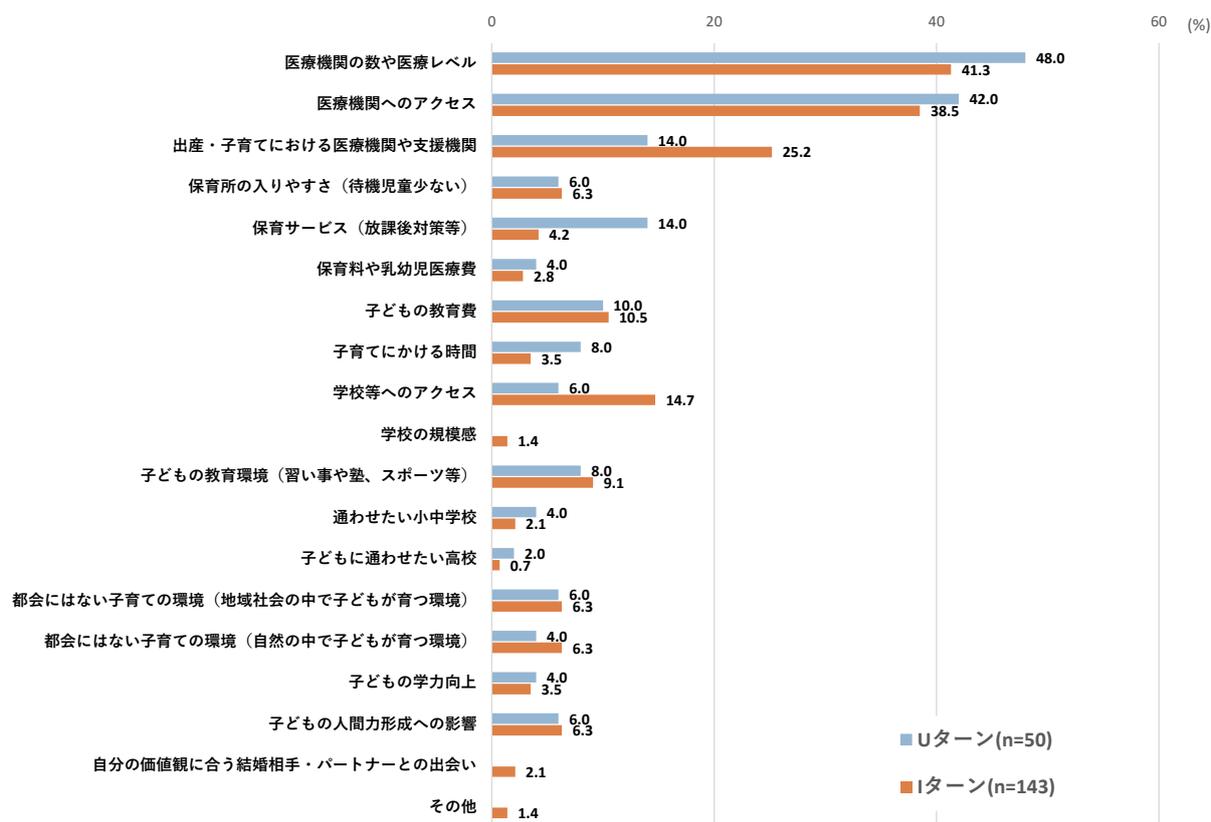
## ② 生活環境に関すること



## 【ポイント】

- Uターン検討者は、「仕事とプライベートのバランス」(31.8%)、「人間関係 (家族・親戚や町内会、公民館等)」(26.5%)、「生活費 (食費等)」(25.8%) を重視。
- Iターン検討者は、「自然環境」(25.6%)、「生活費 (食費等)」(20.1%) を重視。

### ③ 医療福祉、教育・子育てに関すること（※ 子どもが居る場合の回答を抽出）



#### 【ポイント】

- ・ Uターン、Iターンとも、＜子育て分野＞よりも、＜医療分野＞を重視している。
- ・ ＜子育て分野＞について、Uターン検討者は、「保育サービス（放課後対策等）」を重視し（14.0%）、Iターン検討者は、「出産・子育てにおける医療機関や支援機関」を重視する（25.2%）。

#### 【考察】

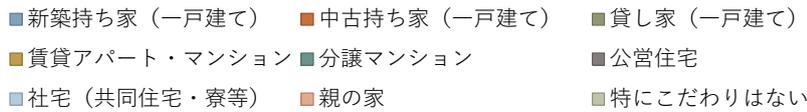
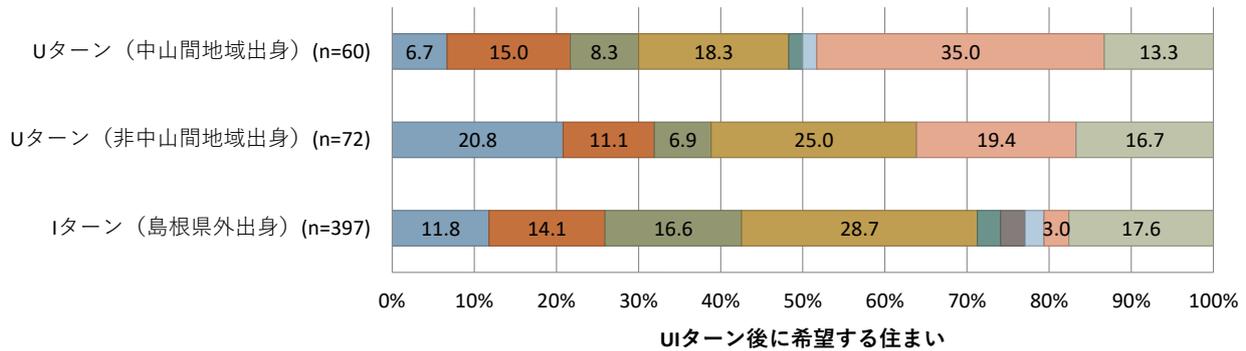
- ・ Uターン検討者は、Iターン検討者よりも「給与」に代表される現実的な項目を重視しており、移住をより現実的に検討していると考えられる。
- ・ 移住の検討段階から実践へと進むための重要なステップアップ要因は「仕事」が決まることである。「動機」に関する分析、及びインタビュー調査からもそれが裏付けられる。

#### 【意見】

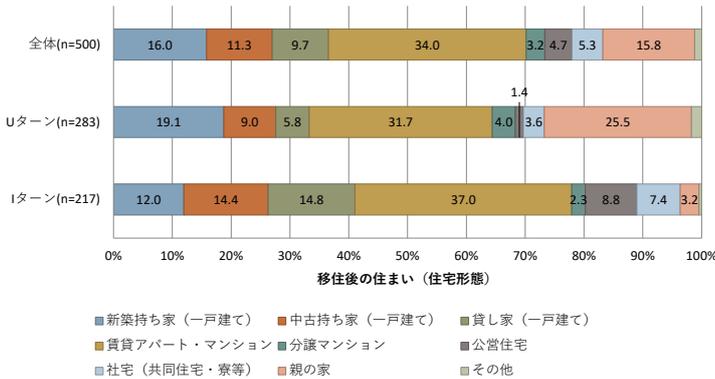
##### <個別インタビューより>

- ・ 収入をどうするかが最もネックだった。地方勤務でも収入条件が変化しない制度が会社で整備されたのが移住の決め手になった。（Uターン、動機：仕事以外／回答時は検討段階だったが、インタビュー時に既に移住。）
- ・ 島根へのIターン意欲を諦めきれず、一念発起して公務員試験を受験することにした。公務員として転職できればリスクは少ないと考えている。現在、受験準備中。（Iターン、動機：仕事以外）
- ・ 定住財団に転職先を紹介してもらい最終面接に進んでいる。採用が決まれば来年に移住。（Uターン、動機：仕事）
- ・ Iターンで中年の自分にとって、安定した仕事に就けるかが条件である。人間関係や、病気などで何かがあれば、親類縁者などの後ろ盾のない自分はどうしようもない。もう少し若ければ、地域おこし協力隊など他の方法を実践できるが、今の自分の年齢でリスクを負えない。（Iターン、動機：仕事以外）

## (6) 移住検討者が UI ターン後に希望する住まい（住宅形態）



### 【参考】実践層の「現在の住宅形態」



### 【ポイント】

- ・実践層と比較すると、中山間地域出身のUターン者検討者の希望は、ほぼその通りとなっている。
- ・非中山間地域出身のUターン者は、希望よりも「賃貸アパート・マンション」に居住するケースが多い。

## (7) UI ターンに関する情報源やサービスの利用状況

情報源/サービス	利用したことがある	認知度
定住財団サイト「くらしまねっと」	69.6	89.6
定住財団サイト「しまっち！」	26.5	58.3
自治体のホームページ	49.9	84.5
企業のホームページ	33.8	70.2
マイナビ等の転職サイト	40.6	79.5
定住財団や自治体等が発行する情報誌	40.2	73.0
テレビ・新聞・雑誌の記事・広告	25.0	64.7
UIターン相談（常設窓口）	29.1	71.8
UIターン相談（移住イベント等）	36.8	77.4
ふるさと回帰支援センター	17.5	55.1
友人・知人からの口コミ	27.6	61.4
家族・親族からの情報	31.5	64.2
UIターン情報の収集   その他	12.5	33.4

### ■ 前回調査（平成 29 年）

情報源/サービス	利用したことがある	認知度
定住財団サイト「くらしまねっと」(n=604)	50.5	72.8
島根県サイト「しまね留学ホームページ」(n=604)	3.8	31.3
島根県サイト「ゆーあいしまね」(n=604)	11.4	36.9
自治体のホームページ(n=604)	32.8	56.0
企業のホームページ(n=604)	16.4	38.1
その他ホームページ情報(n=604)	17.4	36.3
定住財団や自治体等が発行する情報誌(n=604)	47.7	63.9
テレビ・新聞・雑誌の記事(n=604)	21.4	42.1
新聞・雑誌の広告(n=604)	15.4	36.9
UIターン相談窓口(n=604)	28.1	56.5
友人・知人からの口コミ(n=604)	16.4	33.8
家族・親族からの情報(n=604)	20.9	39.1
UIターンフェアや相談会(n=604)	38.4	66.1
ふるさと回帰支援センター(n=604)	7.3	28.1
リクナビNEXT等の転職サイト(n=604)	14.9	34.9
その他(n=604)	0.0	12.5

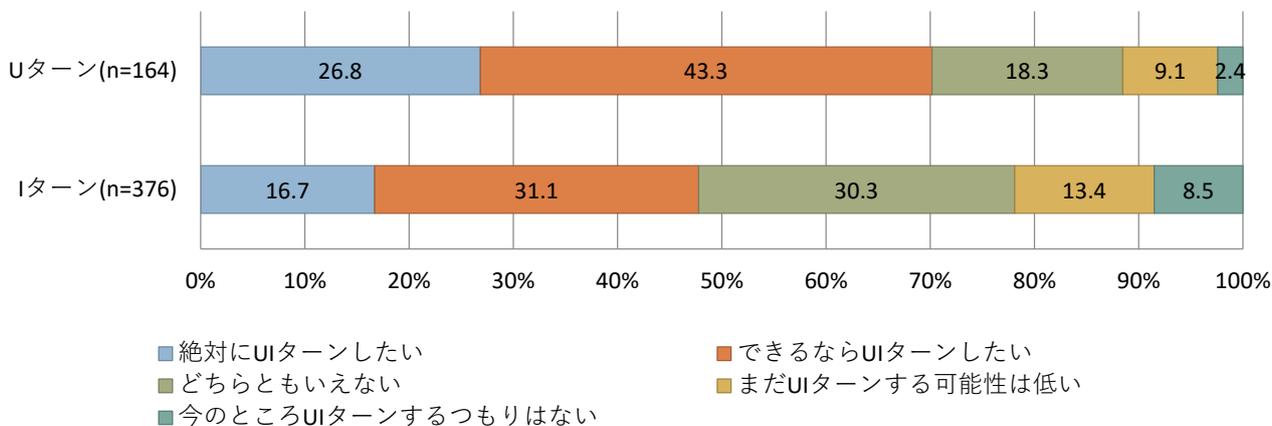
### 【ポイント】

- ・ 前回調査と比較して、定住財団や自治体が発信する情報源の利用状況、認知度は向上傾向にある。

## ■C.関心層（島根県へのUIターンに関心を持つ者）の状況

### （1）UIターン希望の状況

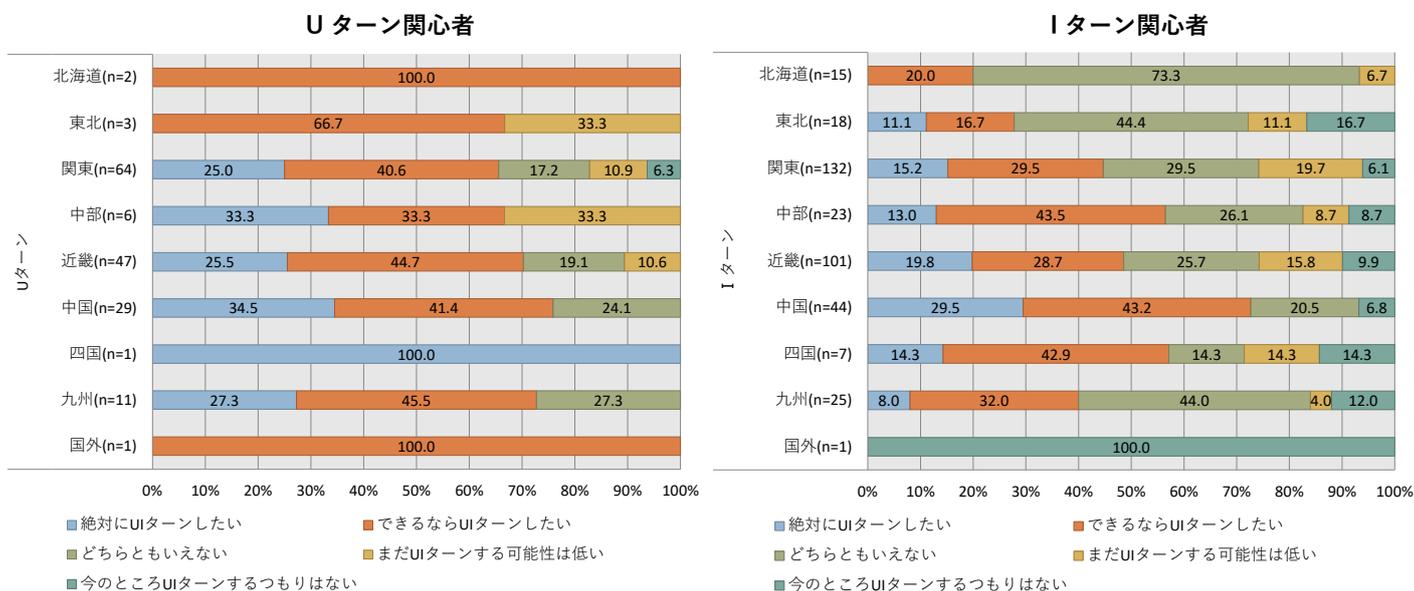
#### ① UIターン別



#### 【ポイント】

- ・ Uターン関心者のほうが、Iターン関心者よりも、UIターンの意向が高い。
- ・ UIターン意向のあるものは、Uターン関心者は70.1%、Iターン関心者は47.8%。

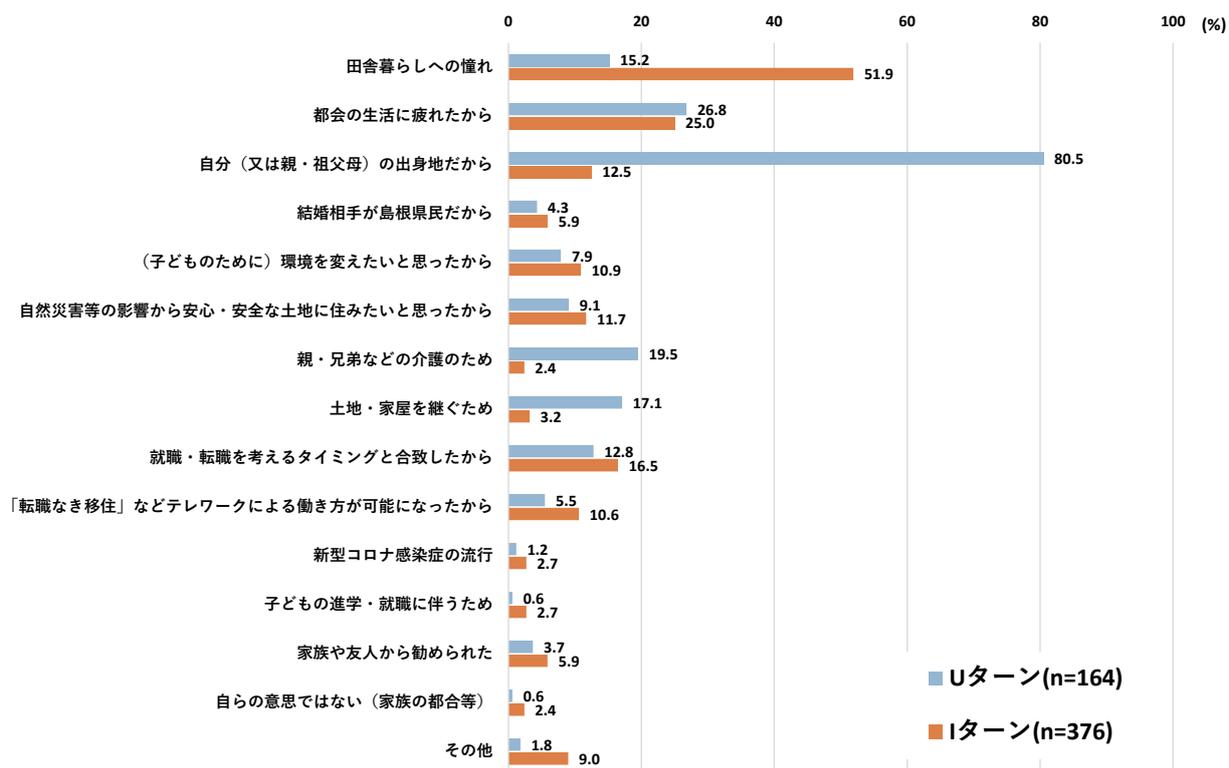
#### ② 現住所別



#### 【ポイント】

- ・ Uターン、Iターンに共通して、「中国地方」の在住者が最もUIターンの意向が高い。
- ・ Uターンの関心者のほうが、Iターンの関心者よりも地域差が少ない。

## (2) UIターンに関心を持つようになったきっかけ



### 【ポイント】

- ・ Iターン関心者は「田舎暮らしへの憧れ」の割合が高い(51.9%)。
- ・ 「就職・転職を考えるタイミングと合致したから」は、UターンIターンともに比較的割合が低い。

### 【考察】

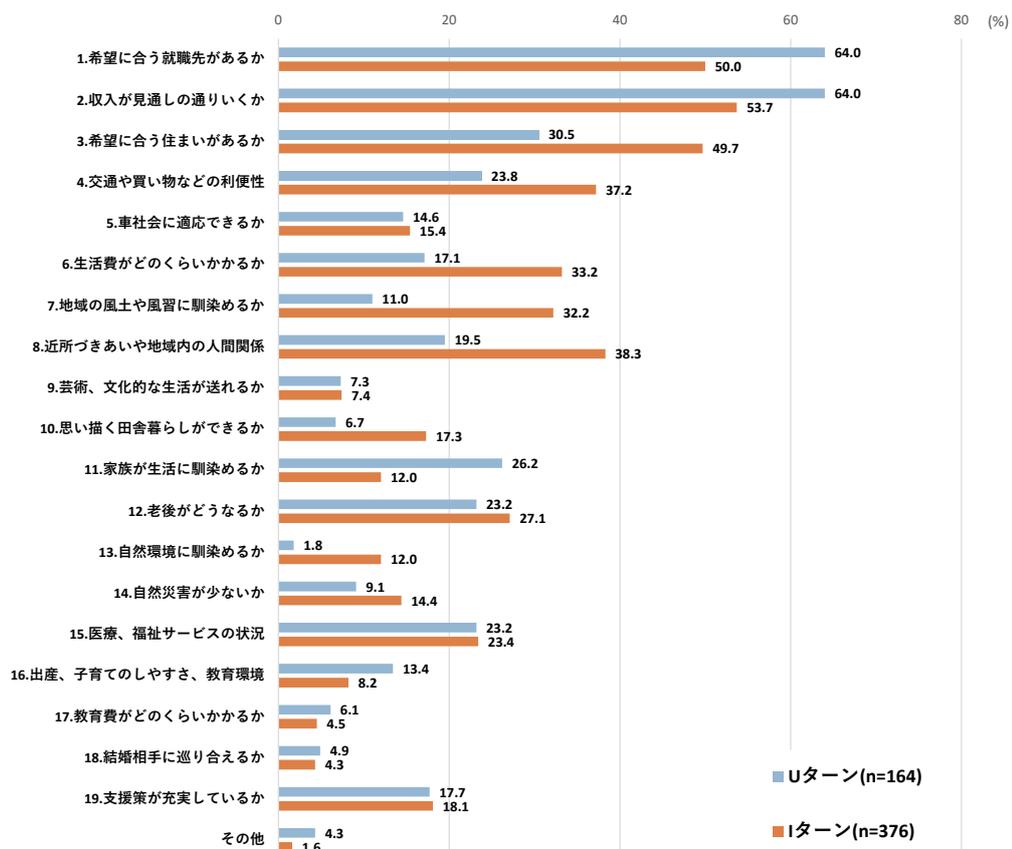
- ・ 移住の実現、あるいは移住の検討段階に進むために、仕事に加えて家族など様々なハードルを解決する必要があり、どこから着手すればよいのか分からない人が多いと考えられる。
- ・ 移住に関心を持っている人に対しては、まず、その人の属性や意向に類似したUIターン者の実例を示すことや、検討に着手するための道しるべを示すことなどが有効であると考えられる。
- ・ 移住定住に直接的に誘導する施策に偏りすぎず、門戸を広げたアプローチも必要である。

### 【意見】

#### <個別インタビューより>

- ・ ゆるやかな関係をつくることから始める施策がもっとあってよい。「しまコトアカデミー」は、都市部に住みながら参加することが前提になっており、参加者に移住定住を押し付けない気軽さがあるため、UIターンフェアに來ない層にもリーチできている。
- ・ 移住定住への直接的な施策に偏ると、関心があっても取りこぼす層が多くなるので、門戸を広げておくことが有効と考える。

### (3) UIターンを考える上での不安



#### 【ポイント】

- ・ Uターン、Iターンに共通して、最も不安視しているのは「仕事分野」の「希望に合う就職先があるか」と「収入が見通しの通りいくか」。
- ・ Uターン関心者が仕事分野の他に不安視している項目は、多い順に「希望に合う住まいがあるか」、「家族が生活に馴染めるか」、「交通や買い物の利便性」で、仕事分野との差が大きい。
- ・ Iターン関心者が仕事分野の他に不安視している項目は、多い順に「希望に合う住まいがあるか」、「近所づきあいや地域内の人間関係」、「生活費がどのくらいかかるか」で、仕事分野との差が小さい。

#### 【考察】

- ・ Uターン、Iターンに共通して、移住に関心を持っていても不安材料が多く、何から検討を進めてよいか分からず、具体化していくことが困難なケースが多いと考えられる。

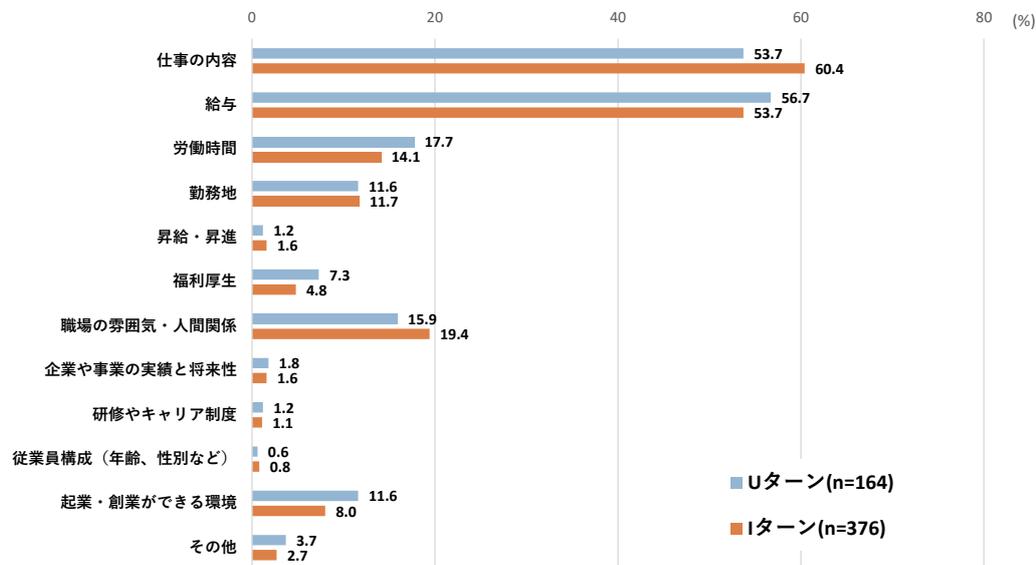
#### 【意見】

##### <調査票の自由記述欄より>

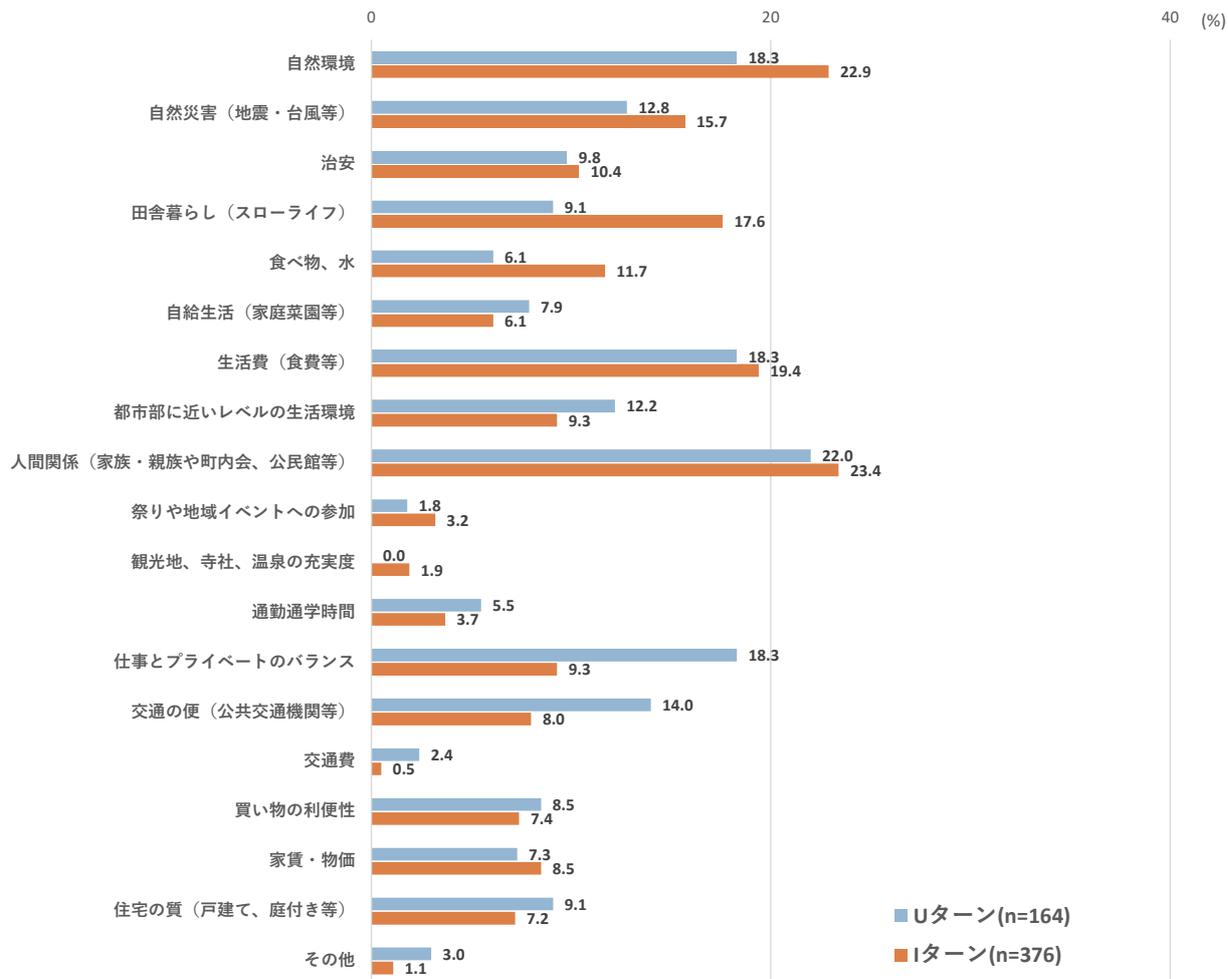
- ・ 今、現地視察をしたいと思っているが、全く土地勘がないため具体的なプランが作れずにいる。住む場所も、市内のアパートにするか、近隣の一軒家にするかの判断ができないなど、具体的に移住の検討をするキッカケを掴めていない。この辺りの相談はできるのか？
- ・ 移住前に就業先、居住先を決め安心して移住したいのですがその進めかたがみつけれないため、アドバイスやお力添えをいただけたらと考えております。
- ・ まずは関係を作ることだと思うが地域活動への参加のあり方がわからない。
- ・ 実際にUIターンをした人・複数拠点生活をしている人のインタビューや事例などを、メルマガなどで配信いただけると助かります。

#### (4) UIターン後の生活を考える上で重視する項目（複数回答）

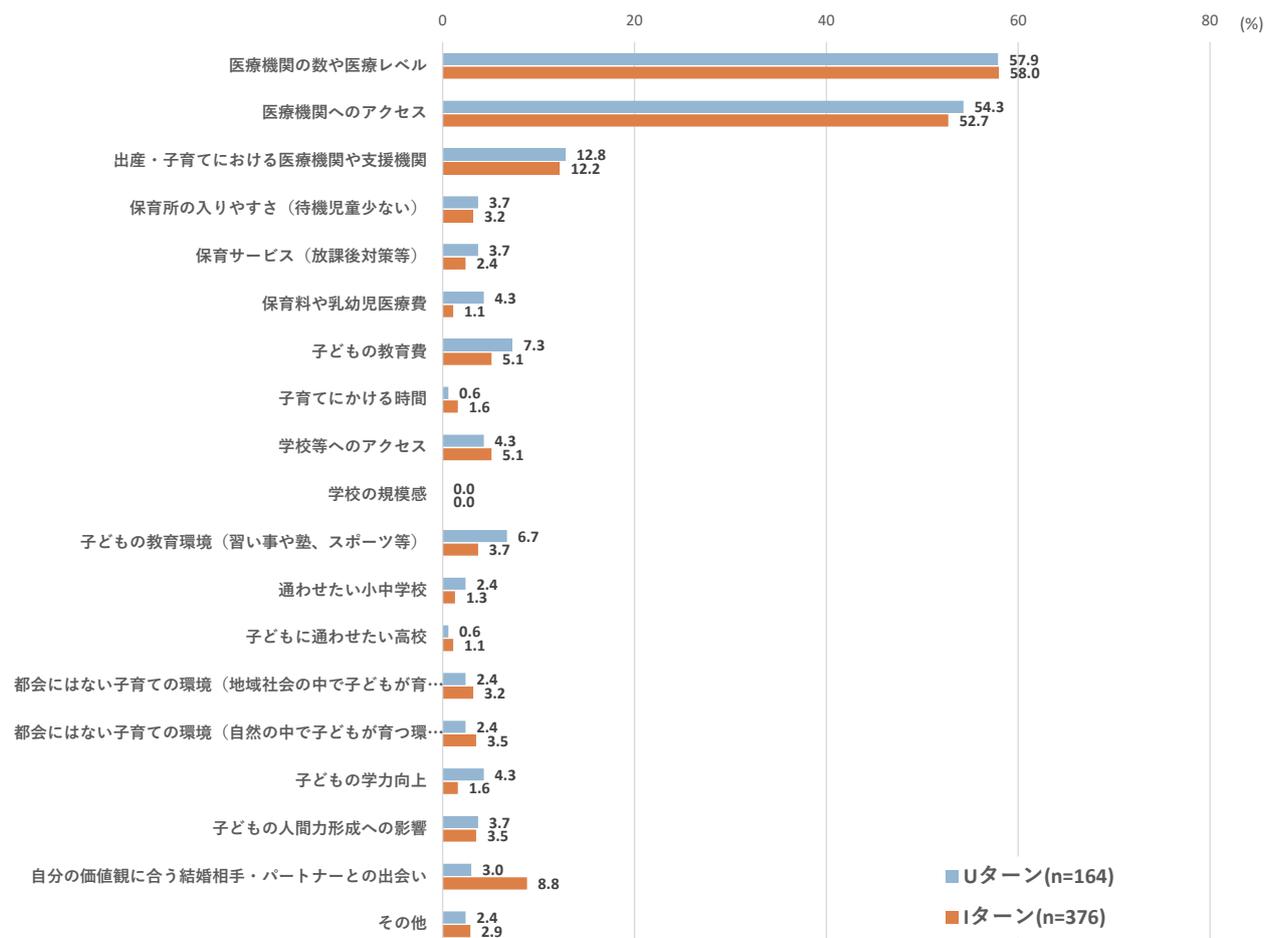
##### ① 仕事に関すること



##### ② 生活環境に関すること

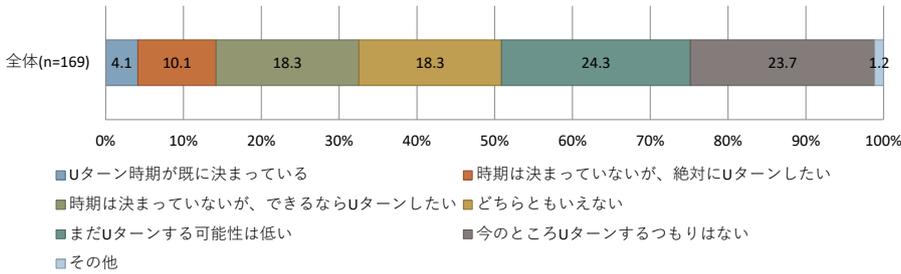


### ③ 医療福祉、教育・子育てに関すること



## ■ D.低関心層の状況

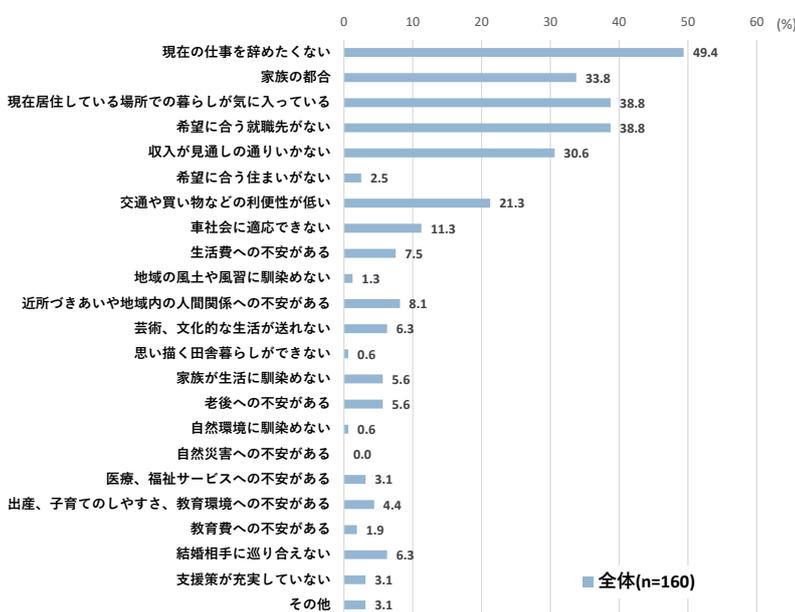
### (1) Uターンの意向



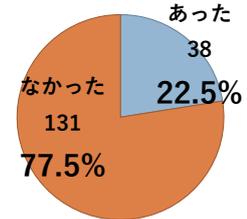
#### 【ポイント】

- ・ 3割程度がUターンの意向をもっている。
- ・ 8割近くが、これまでUターン情報に触れていない。

### (2) 現在、Uターンをしていない理由（複数回答）



島根県へのUターン情報に触れる機会がこれまでにあったか。



#### 【ポイント】

- ・ Uターンしていない最も大きな理由は、「現在の仕事を辞めたくない」で49.4%、次いで「現在居住している場所での暮らしが気に入っている」と「希望に合う就職先がない」で38.8%。

### (3) どのような支援があればUターンを検討するか（複数回答）



#### 【ポイント】

- ・ 「職業紹介支援」が1位で61.7%。
- ・ 「引越し費用支援」が2位で46.3%。

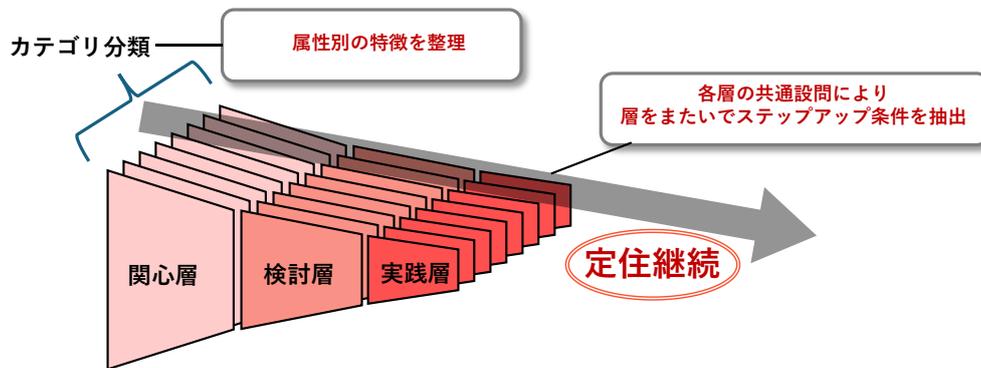
#### 【考察】

- ・ 3割がUターンの意向をもっており、既にUターンが決まっている者も存在する。
- ・ 移住に低関心、というよりも、これまでUターン情報に触れる機会が少なかった層として考えられ、対象者の特徴や意向に合わせて、適切にUターン情報を届けることにより、低関心層にUターンを検討してもらうことは十分に可能である。

### 3. 課題分析

#### (1) 分析方針

- ・ UI ターン者を分類し、8種類の人物像（ペルソナ）を抽出。
- ・ 各カテゴリの人物像がもつ固有の懸念材料や重視項目を整理。
- ・ 層の共通設問により、層を貫通してカテゴリごとのステップアップ条件を整理。



#### ■ 分類のための指標

- ① UI ターンの別（「U ターン」、「I ターン」）
- ② 移住先が中山間地域かそうでないか（「中山間地域」、「非中山間地域〈松江・出雲の市部〉」）
- ③ 移住動機として「転職・就職を考えるタイミングと合致したから」を選択したかどうか

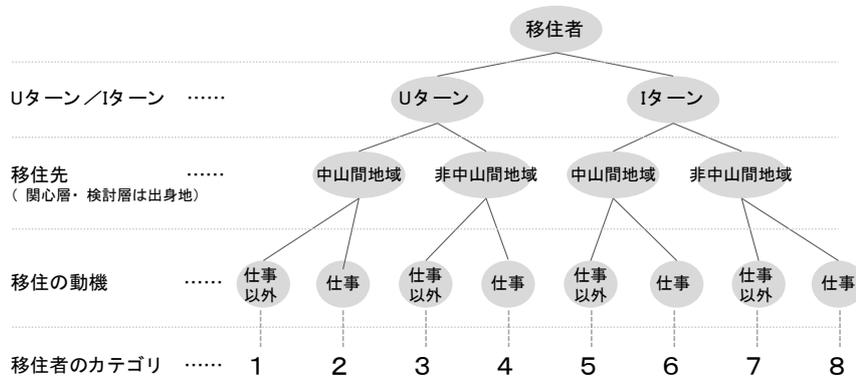


表 3つの指標の組み合わせによる UI ターン者のカテゴリ

UI ターン者のカテゴリ	①UI ターン別	②移住先の地域	③移住動機
1.Uターン_中山間_家族や環境	Uターン	中山間地域	仕事以外を動機とする
2.Uターン_中山間_仕事のため	Uターン	中山間地域	仕事（転職・就職）を動機とする
3.Uターン_都市部_家族や環境	Uターン	非中山間地域	仕事以外を動機とする
4.Uターン_都市部_仕事のため	Uターン	非中山間地域	仕事（転職・就職）を動機とする
5.Iターン_中山間_家族や環境	Iターン	中山間地域	仕事以外を動機とする
6.Iターン_中山間_仕事のため	Iターン	中山間地域	仕事（転職・就職）を動機とする
7.Iターン_都市部_家族や環境	Iターン	非中山間地域	仕事以外を動機とする
8.Iターン_都市部_仕事のため	Iターン	非中山間地域	仕事（転職・就職）を動機とする

## (2) ペルソナの抽出とペルソナごとの移住意識の傾向

Uターン者の カテゴリ	人物像	概要
1.Uターン_中山間_家族や環境(n=84)	家族の都合による地方Uターン型	中山間地域出身のUターン者で、仕事以外の動機（親・兄弟の介護や家族の勧めなど）により移住している。1/4が移住前は学生。生活環境として、田舎暮らし（スローライフ）や人間関係を重視する傾向がある。
2.Uターン_中山間_仕事のため(n=50)	地方就職・後継Uターン型	中山間地域出身のUターン者で、仕事を動機として移住している。仕事が動機である他、実家の土地・家屋を継ぐことも動機とする人が多い。70%が単身者である。仕事面では給与を重視し、生活面では生活費（食費等）、通勤通学時間を重視する傾向がある。
3.Uターン_都市部_家族や環境(n=78)	地方都市環境志向Uターン型	松江・出雲の市部出身のUターン者で、仕事以外の動機（安心・安全な環境など）により移住している。1/3が移住前は学生。生活面では仕事とプライベートのバランスを重視し、子育て・教育面では、学校へのアクセス、出産・子育てにおける医療機関や支援機関を重視する傾向がある。
4.Uターン_都市部_仕事のため(n=71)	地元志向就職・転職Uターン型	松江・出雲の市部出身のUターン者で、仕事を動機として移住している。仕事面では給与を重視し、生活面では仕事とプライベートのバランスを重視する傾向がある。また、結婚相手・パートナーとの出会いも重視している。
5.Iターン_中山間_家族や環境(n=58)	田舎志向憧れIターン型	中山間地域へのIターン者で、仕事以外（田舎暮らしへの憧れ等）を動機として移住している。配偶者と2人、あるいは未就学児の子どもが居る核家族が多い。生活面では田舎暮らし（スローライフ）や災害のない環境を重視し、子育て面では都会にはない子育てのための自然環境を重視している。
6.Iターン_中山間_仕事のため(n=49)	田舎で仕事Iターン型	中山間地域へのIターン者で、仕事を動機として移住している。75%が単身者。仕事面では、給与よりも仕事の内容を重視する傾向がある。生活面では、家賃・物価を重視する。
7.Iターン_都市部_家族や環境(n=63)	パートナー同伴Iターン型	松江・出雲の市部へのIターン者で、仕事以外の動機で移住している。半数以上（54%）が結婚相手への同伴による移住である。生活面で、食べ物・水、買い物の利便性を重視する。
8.Iターン_都市部_仕事のため(n=47)	地方都市総合志向Iターン型	松江・出雲の市部へのIターン者で、仕事を動機として移住している。仕事に合わせて、子育ての面でも地方都市の環境を重視する傾向がある。仕事面では、労働時間、職場の雰囲気・労働時間、企業の将来性と実績、を重視し、生活面では都市部に近いレベルの生活と自然環境を重視する。

### 【意見】

#### <個別インタビューより>

#### 2. 「地方就職・後継Uターン型」の事例： Uターン／男性／20代後半／単身／中山間地域

親が事業を経営しており、事業承継をすることになったのが主な移住理由。何も無いところだから、東京からUターンする自分が地域で何か仕掛けようという気概をもっていた。

#### 6. 「田舎で仕事Iターン型」の事例： Iターン／男性／20代後半／単身／中山間地域

生まれも育ちも東京だが、高校時代から漠然と地方での暮らしに関心を持ち始めた。地方の中小企業で働きたいと思い、富山で1社、出雲で2社に絞り込み、最終的に現在の会社に決めた。

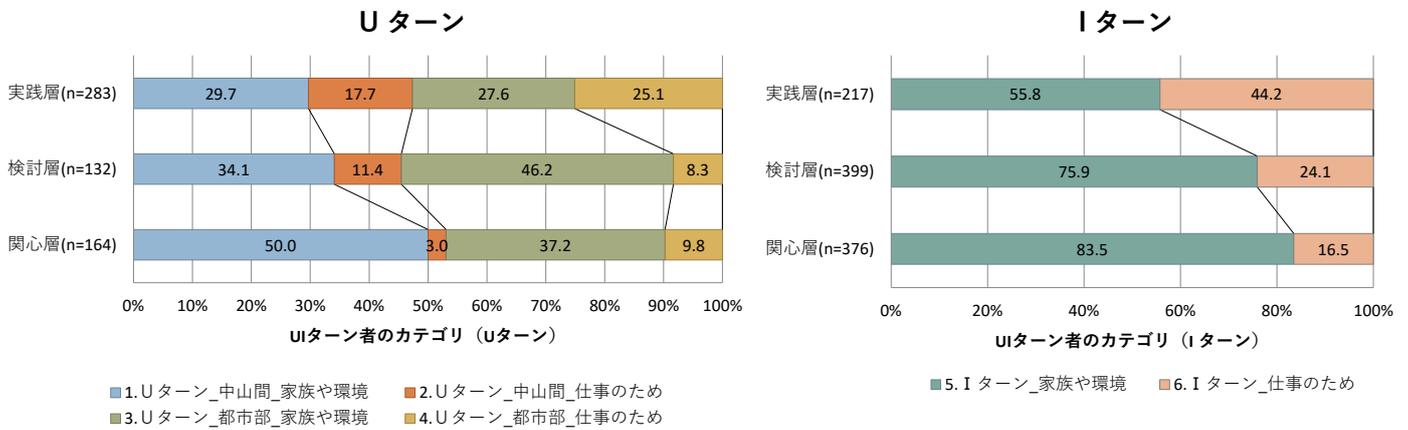
#### 7. 「パートナー同伴Iターン型」の事例： Iターン／女性／20代後半／配偶者と2人／非中山間地域

福岡県の出身だが大学卒業後にどこに住むかは進学時には考えていなかった。松江出身の夫と大学で出会い結婚することになったため、島根で就職活動を行った。

### (3) ステップアップ要因の抽出 (3層間での比較)

#### ① 大きな傾向

#### ■ カテゴリの人数推移

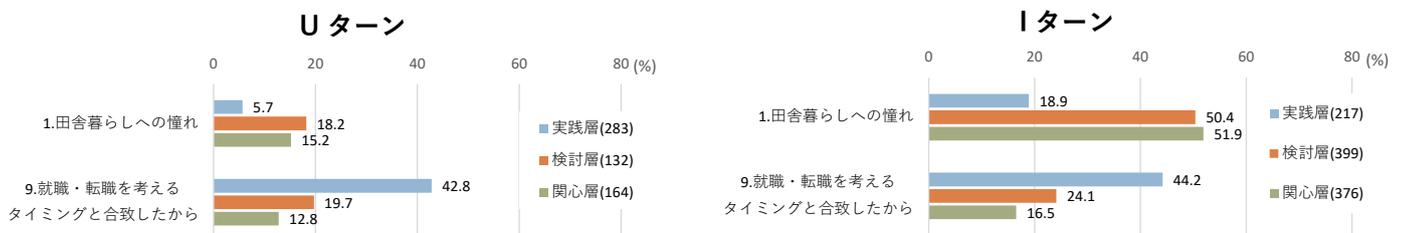


#### 【ポイント】

- ・ 仕事を動機とするカテゴリは、関心段階・検討段階で少なく、実践段階で増える※)。
- ・ 検討段階・関心段階で人数が最も多いボリュームゾーンである「Iターン+家族や環境」カテゴリは、実践段階への推移にあわせて減少する。

※) 調査票の配布対象者として、検討層は Web 履歴書入力者 (求職者)、実践層は就職者に加えて「その家族等」を対象としている。そのため検討段階を経ずに実践に至る移住者 (同伴家族等) が存在する。

#### ■ 動機の推移



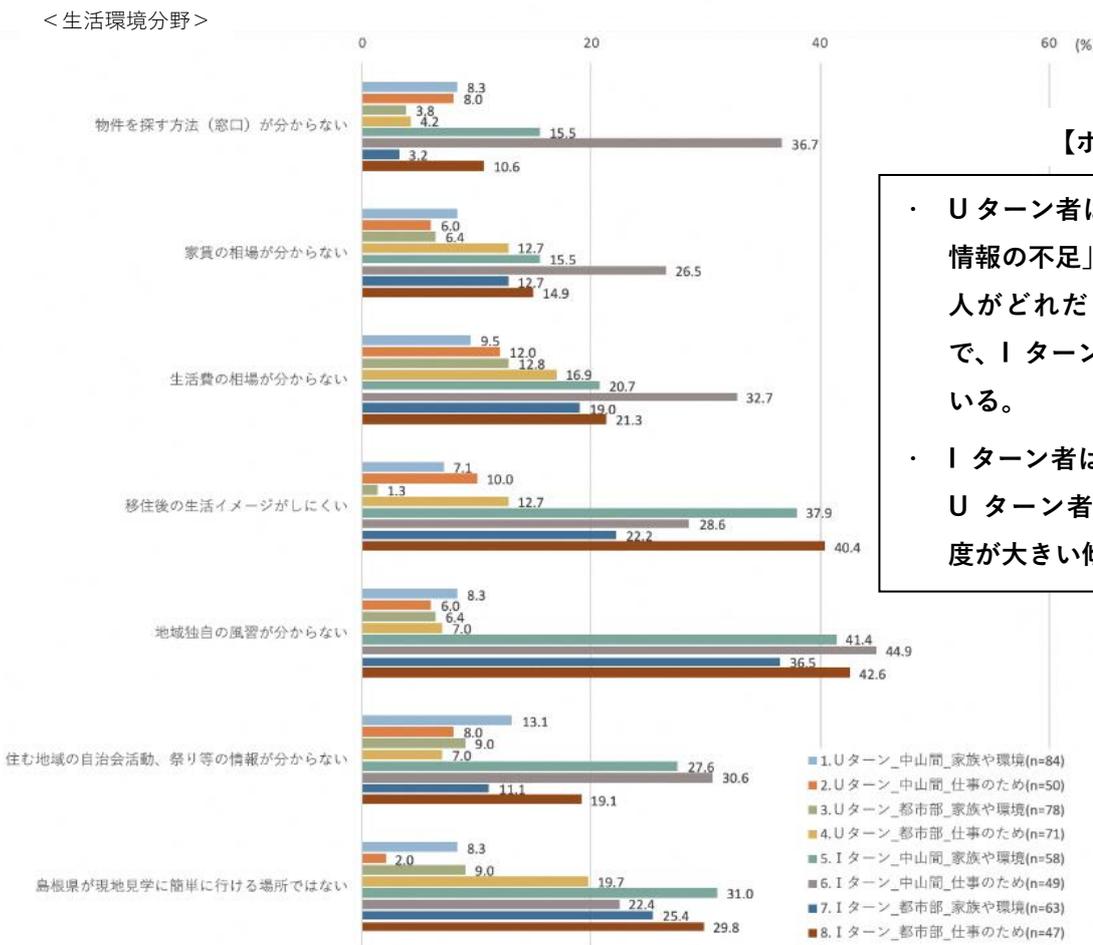
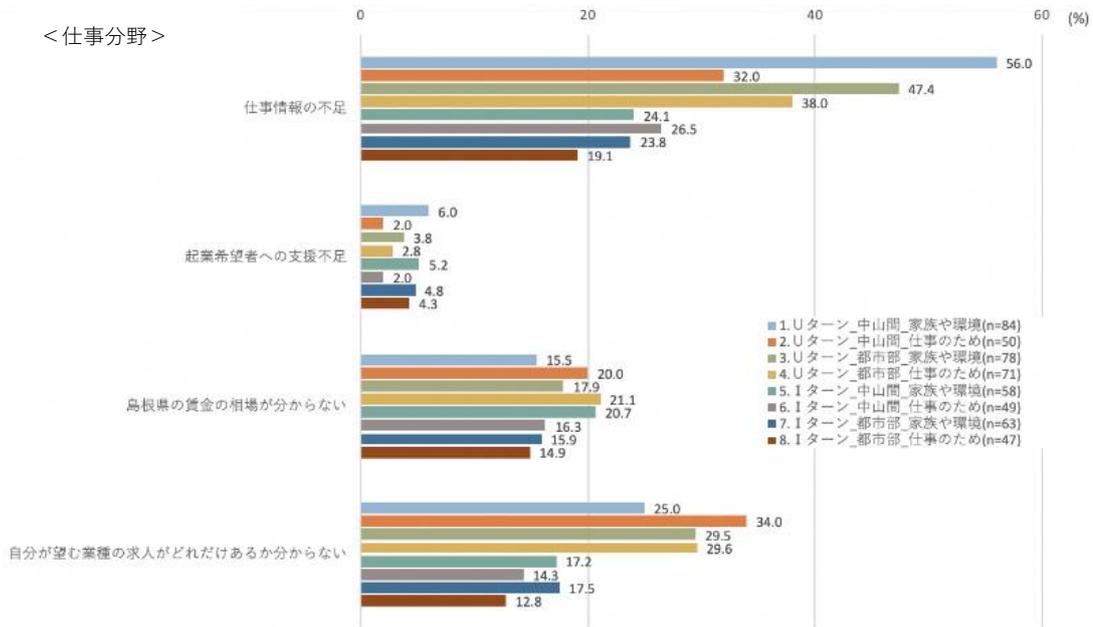
#### 【ポイント】

- ・ Iターン者の動機は、関心段階・検討段階で「田舎暮らしへの憧れ」が50%程度で高いが、実践層では半以下の18.9%に減少する。
- ・ Uターン、Iターンに共通して、「就職・転職を考えるタイミングと合致したから」という動機は、関心、検討、実践段階へ進むにつれて増加する (検討層⇒実践層では約2倍に増加)。

#### 【考察】

- ・ Iターン者は検討段階までは「憧れ」等を動機とする人が多いが、その動機だけで移住を実践に移す人は少ない。
- ・ Uターン者、Iターン者ともに、検討段階から実践段階に進むための最も大きなステップアップ要因は、「就職・転職を考えるタイミング」であると考えられる。

## ■ 実践層の「UI ターン検討時の困りごとや不便」



### 【ポイント】

- ・ Uターン者は<仕事分野>の「仕事情報の不足」、「自分が望む業種の求人がどれだけあるか分からない」で、Iターン者よりも不便を感じている。
- ・ Iターン者は、<生活環境分野>でUターン者よりも不便を感じる程度が大きい傾向。

### 【考察】

- ・ Iターン者はUターン者と比較して、<生活環境分野>に関して困りごとや不便を抱えており、カテゴリの特性に応じて、生活環境分野についてのきめ細かな対策が必要である。

## ② 関心段階から検討段階へのステップアップ要因

関心層と検討層の共通設問「UIターンにあたっての不安」について、「**関心層の割合>検討層の割合**」となる項目をステップアップ要因として抽出した（何らかの方法で不安を解消した or その不安項目を要因としてUIターンを諦めた、と考えられる。）

※ 差が5ポイント以上の項目を抽出。差が10ポイント以上の項目について太字表示。

UIターナーの カテゴリ	1.Uターン_中山間_家族や環境	2.Uターン_中山間_仕事のため	3.Uターン_都市部_家族や環境	4.Uターン_都市部_仕事のため
人物像	家族の都合による地方Uターン型	地方就職・後継Uターン型	地方都市環境志向Uターン型	地元志向就職・転職Uターン型
関心段階から検討段階への ステップアップ要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>希望に合う住まいがあるか</li> <li>家族が生活に馴染めるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近所付き合いや地域内の人間関係 (大)</li> <li>家族が生活に馴染めるか (大)</li> <li>希望に合う住まいがあるか</li> <li>自然災害が少ないか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>希望に合う住まいがあるか</li> <li>家族が生活に馴染めるか</li> <li>車社会に適應できるか</li> <li>自然災害が少ないか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>希望に合う住まいがあるか (大)</li> <li>家族が生活に馴染めるか (大)</li> <li>車社会に適應できるか</li> <li>生活費がどのくらいかかるか</li> </ul>

UIターナーの カテゴリ	5.Iターン_家族や環境	6.Iターン_仕事のため
人物像	田舎志向憧れ・ パートナー同伴Iターン型	地方総合志向Iターン型
関心段階から検討段階への ステップアップ要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>希望に合う住まいがあるか (大)</li> <li>交通や買い物などの利便性 (大)</li> <li>生活費がどのくらいかかるか</li> <li>地域の風土や風習に馴染めるか</li> <li>思い描く田舎暮らしができるか</li> <li>老後がどうなるか</li> <li>支援策が充実しているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>希望に合う住まいがあるか (大)</li> <li>老後がどうなるか (大)</li> <li>希望に合う就職先があるか</li> <li>収入が見通しの通りいくか</li> <li>車社会に適應できるか</li> <li>生活費がどのくらいかかるか</li> <li>地域の風土や風習に馴染めるか</li> <li>支援策が充実しているか</li> </ul>

### 【ポイント】

- 「希望に合う住まいがあるか」の不安解消は、全カテゴリ共通のステップアップ要因。
- Uターナーでは、「家族が生活に馴染めるか」が共通のステップアップ要因で、特に仕事を動機とする場合にポイント差が大きい。
- Iターナーは、Uターナーに比べて多数の項目が抽出された。Iターナー者の共通項目は「地域の風土や風習に馴染めるか」「老後がどうなるか」「生活費がどのくらいかかるか」「支援策が充実しているか」。
- Iターナー者は、仕事以外の動機の場合は「交通や買い物などの利便性」のポイント差が大きく、仕事を動機とする場合は「老後がどうなるか」のポイント差が大きい。

### 【考察】

- 関心層に向けて、まず「住まい」の情報（カテゴリ別の希望と実態の比較データ、典型的な住まいの実例、費用の目安、探し方の紹介等）を発信することが効果的と考えられる。
- Uターンに関心を持つ人に対しては、その家族（島根県外出身の配偶者等）の生活を実践者の実例を交えて紹介し、生活に馴染んでいくイメージの共有、そのコツを発信することが効果的と考えられる。
- Iターンに関心を持つ人に対しては、生活環境全般についてのイメージを総合的に情報発信することが効果的である（例えば移住体験漫画など）。特に、仕事以外の動機の人に対しては、実際の生活の様子（交通や買い物）、仕事が動機の人に対しては仕事を含めたライフスタイルのあり方へ焦点をあてた内容がよいと考えられる。

### ③ 検討段階から実践段階へのステップアップ要因

検討層と実践層の共通設問「UI ターン検討時の困りごとや不便」について、「**検討層の割合 > 実践層の割合**」となる項目をステップアップ要因として抽出した（何らかの方法で困りごとや不便を解消した or その項目を要因として UI ターンを諦めた、と考えられる。）

※ 差が 20 ポイント以上の項目を抽出。差が 25 ポイント以上の項目について太字表示。

UI ターン者のカテゴリ	1. U ターン_中山間_家族や環境	2. U ターン_中山間_仕事のため	3. U ターン_都市部_家族や環境	4. U ターン_都市部_仕事のため
人物像	家族の都合による地方Uターン型	地方就職・後継Uターン型	地方都市環境志向Uターン型	地元志向就職・転職Uターン型
検討段階から実践段階へのステップアップ要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島根県の賃金の相場が分からない</li> <li>・自分が望む業種の求人がどれだけあるか分からない</li> <li>・生活費の相場が分からない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>仕事情報の不足</b></li> <li>・島根県の賃金の相場が分からない</li> <li>・<b>自分が望む業種の求人がどれだけあるか分からない</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が望む業種の求人がどれだけあるか分からない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>仕事情報の不足</b></li> <li>・<b>自分が望む業種の求人がどれだけあるか分からない</b></li> </ul>

UI ターン者のカテゴリ	5. I ターン_家族や環境	6. I ターン_仕事のため
人物像	田舎志向憧れ・パートナー同伴Iターン型	地方総合志向Iターン型
検討段階から実践段階へのステップアップ要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事情報の不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>仕事情報の不足</b></li> <li>・島根県の賃金の相場が分からない</li> <li>・自分が望む業種の求人がどれだけあるか分からない</li> </ul>

#### 【ポイント】

- ・ 関心層⇒検討層の「不安」よりも、検討層⇒実践層の「検討時の困りごとや不便」の差が大きい。
- ・ 差の大きな項目（20 ポイント以上）は、U ターン者I ターン者で共通して<仕事分野>の項目である。

#### 【考察】

- ・ I ターン者は、実践層では<生活環境分野>での困りごとや不便を感じているが、検討層と実践層の差をみると<仕事分野>の差が大きく、ステップアップ要因として<仕事分野>の要因が大きい。
- ・ 検討層が移住実践に至るには、世帯年収・業種の希望と実態の比較データを示す、UI ターン検討者の希望業種に合わせた個別対応に力を入れるなど、<仕事分野>に焦点を当てた施策が効果的である。

#### 【意見】

<調査票「UI ターン検討にあたって特に困っていることや不便だと感じること」自由記述意見より>

- ・ 初任給の相場はだいたいわかるが、中途採用の場合の給与相場が分からず、現在都会で得ている収入からどれほど下がるのかが分かりにくい。
- ・ おそらく広告業でフリーランスになる人間の想定がされていないと感じます。店舗経営や、農業や企業への就職支援がメインなどはおもいます。現状私はとりあえず東京で独立して、機会あったら島根に行きたいというくらいの気持ちです。松江市に IT 企業の誘致がさかんにされているのがとても良いなと思っていて、エンジニアさんがうらやましいです。
- ・ 配偶者の理解を得ることが難しい。「生活の見通しが立てられるような検討材料(資料)を用意してくれたら相談が始められる」と言われ、育児をしながら諸々の情報を集めてまとめてプレゼンをするまでの準備が自分にはできません。本気度が足りないと言われればそれまでなのかもしれませんが、移住に前向きな気持ちがあってもなかなか動きだすまでに至れていないのが現状です。まず何から調べたら良いのかもわかりません。最低限何の情報も把握しておくべきなのかもわかりません。移住を考え始めた人に向けた行動をフローチャートなどで示していただけると助かります。問い合わせ先なども記載されているとなおありがたいです。

#### ④ 実践段階から居住継続に向けたステップアップ要因

移住実践層の8カテゴリごとに「UIターン後の困りごとと不便」の割合が高い項目を、「居住継続に向けたステップアップ要因」として抽出した。なお、項目全体に渡って、Uターン者よりもIターン者の割合が高くなる傾向が見られたため、Uターン者については上位2位の項目までを、Iターン者については割合が25.0%以上の項目を抽出した。それぞれ、他カテゴリとの差が大きくなる項目を太字表示としている。

UIターン者のカテゴリ	1.Uターン_中山間_家族や環境	2.Uターン_中山間_仕事のため	3.Uターン_都市部_家族や環境	4.Uターン_都市部_仕事のため
人物像	家族の都合による地方Uターン型	地方就職・後継Uターン型	地方都市環境志向Uターン型	地元志向就職・転職Uターン型
居住継続に向けたステップアップ要因 ※ ( ) は回答割合[%]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動(自治会活動等)の頻度 (33.3)</li> <li>・地域独自の風習 (20.2)</li> <li>・野生動物の脅威 (20.2)</li> <li>・車社会への適応 (20.2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結婚相手との出会い (20.0)</li> <li>・天候(降雪等)や自然災害 (18.0)</li> <li>・車社会への適応 (18.0)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車社会への適応 (25.6)</li> <li>・天候(降雪等)や自然災害 (24.4)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車社会への適応 (38.0)</li> <li>・助成などの支援体制 (16.9)</li> <li>・天候(降雪等)や自然災害 (16.9)</li> </ul>

※ Uターン者については、上位2位の項目までを抽出(他カテゴリとの差が大きい項目を太字表示)

UIターン者のカテゴリ	5.Iターン_中山間_家族や環境	6.Iターン_中山間_仕事のため	7.Iターン_都市部_家族や環境	8.Iターン_都市部_仕事のため
人物像	田舎志向憧れIターン型	田舎で仕事Iターン型	パートナー同伴Iターン型	地方都市総合志向Iターン型
居住継続に向けたステップアップ要因 ※ ( ) は回答割合[%]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車社会への適応 (39.7)</li> <li>・天候(積雪等)や自然災害 (34.5)</li> <li>・地元住民との人間関係 (32.8)</li> <li>・地域独自の風習 (31.0)</li> <li>・地域活動(自治会等)の頻度 (31.0)</li> <li>・野生動物の脅威 (27.6)</li> <li>・地域の冠婚葬祭への関わり方 (25.9)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車社会への適応 (34.7)</li> <li>・天候(積雪等)や自然災害 (28.6)</li> <li>・地域活動(自治会等)の頻度 (26.5)</li> <li>・地域独自の風習 (26.5)</li> <li>・友人ができない (26.5)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天候(降雪等)や自然災害 (46.0)</li> <li>・友人ができない (39.7)</li> <li>・車社会への適応 (38.1)</li> <li>・地域独自の風習 (31.7)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天候(降雪等)や自然災害 (40.4)</li> <li>・友人が出来ない (25.5)</li> <li>・車社会への適応 (25.5)</li> </ul>

※ Iターン者については、割合が25.0%以上の項目を抽出(他カテゴリとの差が大きい項目を太字表示)

#### 【ポイント】

- ・ 全カテゴリに共通して「車社会への適応」が抽出された。自由記述の意見をみると「車が大人1人につき1台必要であること」による生活費の増大が負担になっている。

他、カテゴリごとの特徴的なステップアップ要因は以下の通り。

- ・ 1.Uターン\_中山間\_家族や環境(家族の都合によるUターン型)は、「地域活動(自治会活動等)の頻度」の割合が高い。
- ・ 2.Uターン\_中山間\_仕事のため(地方就職・後継Uターン型)は「結婚相手との出会い」の割合が高い。
- ・ 4.Uターン\_都市部\_仕事のため(地元志向就職・転職Uターン型)は、「助成などの支援体制」の割合が他カテゴリと比較して高い。(※ 移住支援金の交付対象が限定されていることへの意見が見られた)
- ・ 5.Iターン\_中山間\_家族や環境(田舎志向憧れIターン型)は、他カテゴリと比較して、「地元住民との人間関係」、「地域独自の風習」、「地域活動の頻度」、「地域の冠婚葬祭への関わり方」といった地域社会に関わる項目での割合が高い。
- ・ 7.Iターン\_都市部\_家族や環境(パートナー同伴Iターン型)は、「天候や自然災害」、「友人ができない」、「地域独自の風習」が、他カテゴリに比べて高い。自由記述では、特に「友人ができない」に関連して、コミュニティの場を求める意見、県外出身者が孤立しがちであることを指摘する意見が見られた。

## 【意見】

<調査票 実践層：「UI ターン後に特に困ったことや不便を感じたこと」自由記述意見より>

### 1. Uターン\_中山間\_家族や環境(家族の都合による地方Uターン型)

- ・田舎特有の付き合い／・畑があるが猿、イノシシが出て全滅した。市が中心となって対策を立てて欲しい。
- ・昔からだが、噂話がすぐにまわる。地域住民がもっと人のプライバシーについて考え、介入しすぎないで欲しい。
- ・婦人科の病院がないこと。子育て支援はあるが、妊娠するまでのハードルが高いように感じた。生理のことや更年期のことを気軽に相談できるような医療機関がないのが不安。不妊治療なども東部や県外へ通わざるを得ないので仕事と両立することは難しい。

### 2. Uターン\_中山間\_仕事のため(地方就職・後継Uターン型)

- ・結婚相手がいない／結婚適齢期の女性が男性に比べて著しく少ない。
- ・車を購入したが、現状の生活費とで困窮まではいかないが前職に比べると給料も減ってしまい自由費がほぼなくなってしまった。奨学金の返済も並行しているので余計に苦しい。
- ・公道の除雪体制が整っていない。

### 3. Uターン\_都市部\_家族や環境(地方都市環境志向Uターン型)

- ・一番出費がかさんでいるのは1人1台車が必要だということ。ペーパードライバーで、かつ車が注文しても半年以上入って来ず非常に苦労した。
- ・とにかく車が必要になり、購入費用もかかるだけではなく注文しても納車まで半年かかったことです。中古なら良いのかもしれませんが、妥協するわけにもいかず困りました。

### 4. Uターン\_都市部\_仕事のため(地元志向就職・転職Uターン型)

- ・当初、家族で車が一台しかなかったため、公共交通を利用する必要があったが、松江市のバス路線図が分かりにくく利用しづらかった。
- ・出雲にUターンするにあたり、運転免許の取得と車の購入をする必要があった為、費用の捻出に苦労しました。
- ・東京からのUIターンは助成があるのに他府県では助成がないことが残念でした。

### 5. Iターン\_中山間\_家族や環境(田舎志向憧れIターン型)

- ・クマやイノシシが子供の通学路に出没する危険があることは気になっています。
- ・以前は電車移動を主としていた為、車運転が必須となった。大人一人に対して1台用意することやガソリン代にかかる費用が想像していたものより遥かに高かった。
- ・消防団の活動が多い。

### 6. Iターン\_中山間\_仕事のため(田舎で仕事Iターン型)

- ・UIターン者との交流等もなく、家族や職場以外の方との交流する機会が持ちづらい。
- ・あまり同年代、趣味が同じな人がいない。
- ・車を持っていなかったため、生活や仕事でとても不便なのに、役場のサポートがほぼなかったこと。

### 7. Iターン\_都市部\_家族や環境(パートナー同伴Iターン型)

- ・同伴してきた県外出身者が気軽に参加できるUIターン家族のコミュニティ情報が欲しい。
- ・子育ての関係で、同じような年代の人がどこで何をしているかわからない。
- ・仕事もしておらず、友達もいなかったため孤独だった。

### 8. Iターン\_都市部\_仕事のため(地方都市総合志向Iターン型)

- ・これから子育てが始まるという中での引っ越しで、運転が必須となる状況となり車やチャイルドシートを購入するのにお金がかかった。東京では、かからない車の維持費、ガソリン代がかかるようになった。
- ・妻が車の運転をしたことがなかったが、車無しでは買い物、子供の遊びや習い事など生活に不便が生じることが分かり、運転をすることになった。
- ・UIターン後のフォロー（移住者どうしの交流など）を充実させてほしい

## 4. 施策の提案

### ■ 移住促進施策

UIターン者の カテゴリ	1.Uターン _中山間_家族や環境	2.Uターン _中山間_仕事のため	3.Uターン _都市部_家族や環境	4.Uターン _都市部_仕事のため	5.Iターン _家族や環境	6.Iターン _仕事のため
人物像	家族の都合による 地方Uターン型	地方就職・後継 Uターン型	地方都市環境志向 Uターン型	地元志向就職・転職 Uターン型	田舎志向憧れ・ パートナー同伴Iターン 型	地方総合志向 Iターン型
関心層	方針	関心層は不安材料が多いため、情報発信において、 <b>具体的な検討を進めるための指針や判断材料</b> を示す				
	共通項目	共通項目：「希望に合う住まいがあるか」の不安に対する情報提供 / 希望と実態の比較データ、典型的な住まいの実例、費用の目安、探し方の紹介、等 Uターン向け：「 <b>家族が生活に馴染めるか</b> 」の不安に対する情報提供 / 家族（県外出身の配偶者等）の生活の実例、生活に馴染むためのコツの紹介、等				Iターン向け： <b>田舎暮らしの魅力</b> のPR
	個別項目		・近所付き合いや地域内の人間関係	・車社会に必要な生活コスト	・車社会に必要な生活コスト	<b>実際の生活の様子</b> に焦点をあてた移住生活イメージを伝える。 交通や買い物などの利便性/生活費/地域の風土や風習/支援策
検討層	<仕事分野>に焦点をあてた <b>施策</b> / 世帯年収・業種の希望と実態の比較データを示す、UIターン検討者の希望業種に合わせた個別対応					

### ■ 居住継続支援が求められる事項

UIターン者の カテゴリ	1.Uターン_中山間_家族や環境	2.Uターン_中山間_仕事のため	3.Uターン_都市部_家族や環境	4.Uターン_都市部_仕事のため
人物像	家族の都合による地方Uターン型	地方就職・後継Uターン型	地方都市環境志向Uターン型	地元志向就職・転職Uターン型
実践層（移住後の困りごと）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動（自治会活動等）の頻度（33.3）</li> <li>・地域独自の風習（20.2）</li> <li>・野生動物の脅威（20.2）</li> <li>・車社会への適応（20.2）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結婚相手との出会い（20.0）</li> <li>・天候（降雪等）や自然災害（18.0）</li> <li>・車社会への適応（18.0）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車社会への適応（25.6）</li> <li>・天候（降雪等）や自然災害（24.4）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車社会への適応（38.0）</li> <li>・助成などの支援体制（16.9）</li> <li>・天候（降雪等）や自然災害（16.9）</li> </ul>

UIターン者の カテゴリ	5.Iターン_中山間_家族や環境	7.Iターン_都市部_家族や環境	6.Iターン_中山間_仕事のため	8.Iターン_都市部_仕事のため
人物像	田舎志向憧れIターン型	パートナー同伴Iターン型	田舎で仕事Iターン型	地方都市総合志向Iターン型
実践層（移住後の困りごと）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車社会への適応（39.7）</li> <li>・天候（積雪等）や自然災害（34.5）</li> <li>・地元住民との人間関係（32.8）</li> <li>・地域独自の風習（31.0）</li> <li>・地域活動（自治会等）の頻度（31.0）</li> <li>・野生動物の脅威（27.6）</li> <li>・地域の冠婚葬祭への関わり方（25.9）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天候（降雪等）や自然災害（46.0）</li> <li>・友人ができない（39.7）</li> <li>・車社会への適応（38.1）</li> <li>・地域独自の風習（31.7）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車社会への適応（34.7）</li> <li>・天候（積雪等）や自然災害（28.6）</li> <li>・地域活動（自治会等）の頻度（26.5）</li> <li>・地域独自の風習（26.5）</li> <li>・友人ができない（26.5）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天候（降雪等）や自然災害（40.4）</li> <li>・友人が来れない（25.5）</li> <li>・車社会への適応（25.5）</li> </ul>

#### ○ 移住者のカテゴリごとの「希望と実態」のデータセットの作成と情報発信

住宅形態・世帯年収・業種について、検討層の希望と実践層の実態を比較するデータセットをカテゴリ別に作成し、関心層・検討層が検討を進めるための判断材料として情報公開する。

#### ○ 移住希望者の診断カルテプログラム

導出された8つのカテゴリを参考として、移住希望者がどのカテゴリに属しており何を検討すべきかを示すオリエンテーションのための診断カルテを作成する。移住希望者（特に関心層）にとって検討着手にあたっての道しるべとなり、支援者にとって支援事項の優先順位決定の参考資料となる。

## 5. 総括

### ○ 「A.移住実践層」

- ・ 定住意向についての経年比較の結果、「ずっと暮らし続けたい」とする定住意向の割合は、Uターン者は微増傾向、Iターン者は微減傾向となった。
- ・ Iターン者は、Uターン者と比較して生活の満足度が高く、希望の職業に就いている割合が高い。しかし、それと対照的に、Iターン者は定住意向や職業の継続意向が低く、中山間地域へのIターン者により強くその傾向が見られた。
- ・ Iターン者の定住意向が低い理由として、「人生ステージによって居住する地域を移す、多拠点で居住する」というライフスタイルに起因する可能性の考察に至った。

### ○ 「B.移住検討層」

- ・ Uターン検討者のほうが、Iターン検討者よりも、UIターンの意向が高く、また、年代が上がるにつれてUIターン意向が高まる傾向にある。
- ・ 実践層と比較して、検討層の動機は「田舎暮らしへの憧れ」と「都会の生活に疲れたから」が多く、Iターン検討者の最大の検討動機は「田舎暮らしへの憧れ」で50.4%（実践層の2.6倍）である。
- ・ 検討層の動機「就職・転職を考えるタイミングと合致したから」はUIターン者ともに実践層の半分の割合に減少している。
- ・ Uターン検討者は、Iターン検討者よりも「給与」に代表される現実的な項目を重視しており、移住をより現実的に検討していると考えられる。
- ・ 移住の検討段階から実践へと進むための最も重要なステップアップ要因は「仕事」が決まることであるという考察に至った。

### ○ 「C.移住関心層」

- ・ 関心層の動機では「田舎暮らしへの憧れ」の割合が実践層の場合より高く2.7倍になっている。
- ・ 関心層の動機で「就職・転職を考えるタイミングと合致したから」は、UIターン関心者ともに検討層よりも減少している（実践層の3割程度）。
- ・ 移住の実現、あるいは移住の検討段階に進むために、仕事に加えて家族など様々なハードルを解決する必要があり、どこから着手すればよいのか分からない人が多いと考えられる。
- ・ 移住に関心を持っている人に対しては、まず、その人の属性や意向に類似したUIターン者の実例を示すことや、検討に着手するための道しるべを示すことなどが有効であると考えられる。
- ・ 移住定住に直接的に誘導する施策に偏りすぎず、門戸を広げたアプローチも必要である。

### ○ 転職なき移住（テレワークなど）がUIターン者の移住意識に与える影響

- ・ テレワーク等の影響は、全体としては少数派であったが、ペルソナの「3.Uターン\_都市部\_家族や環境（地方都市環境志向Uターン型）」では、テレワークを移住動機とした人が7.7%存在しており、インタビューからそれが強い動機になったことが分かっている。

#### 【意見】

##### <個別インタビューより>

- ・ 職種はIT系、広報・マーケティングが専門。Uターンしたい気持ちがかもともとあったが、島根に戻っても仕事がないと考えていた。コロナ禍を経てテレワークによる「転職なき移住」の機運が高まり、業界の関連会社で地方に住みながら勤務する体制が整備されたことが、Uターンの動機として最も強い。

### ○ 課題分析（カテゴリ分析とステップアップ要因の抽出）

- ・ 多種多様にわたる UI ターン者の移住意識について、その傾向の差異を浮かび上がらせるための3つのシンプルな指標（①UI ターンの別<U ターン/I ターン>、②移住先の地域類型<中山間地域/非中山間地域>、③動機<仕事を動機とする/仕事を動機としない>）を抽出し、UI ターン者の8つの人物像（ペルソナ）を設定した。
- ・ 実践層、検討層、関心層の共通設問による層間の分析を通じて、UI ターン者のカテゴリ（人物像）ごとに、次の層へ進むためのステップアップ要因を抽出した。
- ・ 層間の分析の結果、関心層と実践層については、カテゴリごとの特徴がある要因が抽出されたが、検討層については全カテゴリで共通して<仕事分野>の要因が抽出された。これは、検討層の調査対象者を求職登録者（Web 履歴書入力者）としたためである。一方で、実践層には検討段階を経していない移住者（県内企業就職者の家族等）が存在しており、全ての移住者が関心⇒検討⇒実践を順序立ててステップを踏むのではないことが分かった。

### ○ 本調査の意義と今後の課題

- ・ 実践層、検討層、関心層について、各 500 件以上の回答を収集したことにより、多数の属性やカテゴリによる分析に耐えるデータ量となったことは本調査のひとつの大きな意義である。本調査で提示した移住者の8つのカテゴリは、実践層の人数をほぼ均等に分割する指標として導かれ、関心層、検討層から実践層へ至る移住者の意識構造を分析してきた。この分析が可能になったのは、本調査での回収数に依るところが大きい。
- ・ 本調査では移住者の意識構造を分析したが、各層 500 件以上の回答数から成る調査票データは、移住者の希望（関心層・検討層）と移住者の実態（実践層）を示すデータ集としての活用可能性を有する。具体的には、「住宅形態」、「世帯年収」、「職業（雇用形態・業種）」について、移住検討者の希望と移住実践者の実態を定量的に比較するデータセットを作成することができる。本調査で、多くの移住希望者が移住検討のための判断材料を求めていることが分かっている。回収した調査票データを活用し、移住者の検討のための判断材料として整理し、情報発信の素材とすることが今後の課題として挙げられる。